

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町には、市街地の東西に音更川河岸段丘、オサルシナイ丘陵、耕地防風林、十勝牧場内の自然空間など、景観上も重要な多くの「緑」が残されている一方で、市街地の一部では、緑化が不足しています。身近な生活の場にも自然の潤いを感じられるような景観づくりを進めていくことが必要です。
- 本町は、「景観づくり基本計画」などに基づき、河岸段丘の保全、公共施設案内看板の統一や地域の緑化、景観に配慮した都市整備などに取り組んでいます。近年、国が「景観法」を制定し、北海道では「北海道景観計画」を策定するなか、本町においても、良好な景観の形成、保全に向けて、景観に対する町民の理解や意識を高めていくことが必要です。特に、市街地の幹線道路沿道で、大型広告物の色彩などの景観に与える影響が大きいことから、事業者などとも連携して優れた景観づくりに取り組んでいくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 「景観づくり基本計画」に基づき、景観の重要性の認識を高めるとともに、町内の優れた景観を保全し、自然と調和した心安らぐ美しい景観づくりを進めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

景観づくりに関する事業に遅れが見れるが、地区計画制度の活用による良好な景観の形成が行われるとともに、「潤いと思いやりの地域づくり事業」の活用により、町内会が公園等の清掃が行うなど、景観の形成、保護に一定の効果が表れている。また、農村地域においては、ひまわり種子の助成により、農村景観の向上が図られている。

(2)残されている課題等

農村景観の更なる向上を図るため、積極的な施策の利用が図れるよう促すことが課題となっている。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	3.44	分野全体の達成状況	C	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号	
施策						
所管課						
<b>(1) 景観に対する意識の向上</b>						
① 景観の重要性について認識を高める機会を提供します。						
都市計画	2	2	2	景観に関する事業の進捗状況に遅れがあることから、今後行う事業等を明確にする必要がある。	①-1	
② 景観づくりを行う組織の育成や活動を支援します。						
広報広聴	4	5	4	町内会等が地域環境美化を推進することで、地域全体の意識は高まってきている。今後も地域環境美化に関する支援を継続していく必要がある。	②-1	
<b>(2) 景観に配慮したまちづくりの推進</b>						
① 景観法の周知により、景観に配慮した公共事業を進めます。						
都市計画	5	5	5	景観法に基づいた意見聴取を行っており、景観維持のために今後も施策の推進を図る。	①-1	
② 沿道景観づくりのため、景観に配慮した大型広告物への指導、助言に努めます。						
都市計画	1	1	1	基本方針の策定に向け、計画的に事務を進める必要がある。	②-1	
<b>(3) 地域の特性を活かした景観の形成、保護</b>						
① 河川における連続性のある緑の景観づくりを進めるため、河川空間の整備と河岸段丘の保全に努めます。						
都市計画	5	1	1	河岸段丘の保全のために、保全の必要な箇所を買収が完了し、施策が達成されている。	①-1	
② 地区計画制度を活用して景観づくりを進めます。						
都市計画	5	5	5	地区計画により、その地区の建築等の確認を実施しており、地域の特性を活かした景観の形成保護が図られている。	②-1	
③ 農村の景観を向上させるため、景観緑肥や耕地防風林の保全、沿道景観づくりに努めます。						
財政	5	5	5	年次計画に沿って現在使用していない古い教員住宅等の解体を実施している。今後は、老朽化の著しい建物の解体について、計画的に実施し、農村景観の向上を図る必要がある。	③-1	
農政	3	3	3	景観緑肥や耕地防風林の造成は、風害対策としても効果的であるので、今後も引き続き施策の推進を図る。	③-2	
商工観光	5	5	5	ひまわり種子の助成により、景観対策と観光事業を同時に実施することができ、引き続き事業の展開を図る。また、ひまわり種子助成について、場所や内容のより効果的な宣伝方法等を検討していく必要がある。	③-3	
<b>全施策の推進状況の平均値</b>						
	3.89	3.56	3.44			

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「潤いと思いやりの地域づくり事業(地域緑化事業)」の申請件数	町内会組織などを中心とする「潤いと思いやりの地域づくり事業」における地域緑化事業の申請件数(年間)
2		
3		
4		
5		
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	件	37.0	H21	42.00	45	44	44	H26	100.0
2									
3									
4									
5									
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)景観に対する意識の向上	担当課	都市計画課
施策	① 景観の重要性について認識を高める機会を提供します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	セミナー等の開催		景観フォーラムやセミナーなどの開催回数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	0	1	0	0	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	2	良好な景観形成は、住民の心を豊かにさせるとともに、そこに訪れる人にも良い印象を与えるなど、町の魅力を向上させることから必要な施策である。	2	音更町景観づくり基本計画の更なる充実が必要と考えるが、作業までには至っていない。
24年度	2	同上	2	同上
25年度	2	同上	2	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	音更町景観づくり基本計画の充実及びセミナー等の開催に至っておらず、25年度の実績件数は0件となっている。施策の推進に遅れがある。	施策の題	主体となる町民・事業主の理解を得つつ、本町において求められる景観やそれを維持する体制づくりを検討する必要があるため、施策の推進に時間を要する。
総合評価 (方向性)	景観に関する事業の進捗状況に遅れがあることから、今後行う事業等を明確にする必要がある。		

(1)景観に対する意識の向上 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	帯広圏都市計画セミナー					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	景観づくりに関する講演会	回		1			【23】帯広圏広域都市計画協議会として実施

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	2					3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度		
							3	順調に進んでいる(80~100%)	
							2	ある程度進んでいる(50~79%)	
							1	遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	2.00							

施策区分	(1)景観に対する意識の向上	担当課	広報広聴課
施策	② 景観づくりを行う組織の育成や活動を支援します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	「潤いと思いやりの地域づくり事業<地域環境美化事業(公園等の清掃)>」の申請件数		町内会組織などを中心とする「潤いと思いやりの地域づくり事業」における地域環境美化事業(公園等の清掃)の申請件数(年間)			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	52	53	55	55	
	基準年度比(%)		1.9	5.8	5.8	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	町内会組織を中心に、自主的に自分たちの住む地域の公園、道路、小河川などの定期的清掃を行い、優れた景観づくりに取り組んでおり、引き続き組織の育成と支援が必要である。	4	事業による町内会組織等への活動支援は22年度実績と比較して、横ばい状態である。
24年度	4	同上	5	事業による町内会組織等への活動支援は微増状態である。
25年度	4	同上	4	事業による町内会組織等への活動支援は横ばい状況である。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	申請件数は横ばいで安定しており、町内会等が地域環境美化を計画的に推進することで、地域の優れた景観づくりへの町民(町内会等)意識が高まってきている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	町内会等が地域環境美化を推進することで、地域全体の意識は高まってきている。今後も地域環境美化に関する支援を継続していく必要がある。		

(1)景観に対する意識の向上 施策② - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	潤いと思いやりの地域づくり事業<地域環境美化事業(公園等の清掃)>	1,040	1,060	1,100	1,100	【】
合 計		1,040	1,060	1,100	1,100	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	「潤いと思いやりの地域づくり事業<地域環境美化事業(公園等の清掃)>」の申請件数	件	52	53	55	55	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	2	3	3	3	3	3	2	1
平均	2.00	2.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

- 貢献度**
- 3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
  - 2 貢献している(施策を推進する事務事業)
  - 1 貢献していない。
- 達成度**
- 3 順調に進んでいる(80~100%)
  - 2 ある程度進んでいる(50~79%)
  - 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)景観に配慮したまちづくりの推進	担当課	都市計画課
施策	① 景観法の周知により、景観に配慮した公共事業を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	意見聴取に対する回答				一定規模以上の建築物等の行為に関する届出制度における意見聴取	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	10	10	12	11	
	基準年度比(%)		0.0	20.0	10.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	本町の良好な景観の形成、保全に向けての取り組みとして必要な施策である。		5	事務事業の推進により、良好な景観の形成・保全の推進が図られている。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成25年度における処理件数は11件となっており、景観に配慮した公共事業の推進が図られている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	景観法に基づいた意見聴取を行っており、景観維持のために今後も施策の推進を図る。		



4 施策の実施に係る事務事業の評価									
(1) 実績の推移等									
事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)			
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度				
1	景観法に基づく行為の届出に係る意見照会					【】			
合 計									
(2) 代表的な成果の推移等									
事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)		
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度			
1	景観法に基づく行為の届出に係る意見照会	件	10	10	12	11			
(3) 事務事業の評価									
事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
							2	ある程度進んでいる(50~79%)	
							1	遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(2)景観に配慮したまちづくりの推進	担当課	都市計画課
施策	② 沿道景観づくりのため、景観に配慮した大型広告物への指導、助言に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1						
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1						
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	2	主要幹線道路である国道241号(音更大通)の沿道景観づくりは、町の魅力を向上させることから必要である。		1	未着手
24年度	2	同上		1	未着手
25年度	2	同上		1	未着手
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	基本方針の策定に時間を要している。	施策の題	沿道景観を含め本町における景観について検討する必要があることから、施策の推進に時間を要する。
総合評価(方向性)	基本方針の策定に向け、計画的に事務を進める必要がある。		



施策区分	(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護	担当課	都市計画課
施策	① 河川における連続性のある緑の景観づくりを進めるため、河川空間の整備と河岸段丘の保全に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	河岸段丘用地の一般会計での買取り		買取り予定地の取得率			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	0	100	100	100	
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	緑の景観づくりを進めるため、必要な施策である。	5	土地開発基金で取得した河岸段丘用地を一般会計にて買取りを行う。その他保全が必要な箇所が無いため平成23年度限りで終了
24年度	4	同上	1	保全が必要な箇所は全て平成23年度に買取りを行ったため。
25年度	4	同上	1	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	河岸段丘用地の買取りは100%達成した。	施策の課題	現施策を達成したため、課題等はない。
総合評価(方向性)	河岸段丘の保全のために、保全の必要な箇所の買取りが完了し、施策が達成されている。		



施策区分	(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護	担当課	都市計画課
施策	② 地区計画制度を活用して景観づくりを進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	地区計画の区域内における行為の届出件数		景観に関する規制を設けている地区における建築等の行為の届出件数で、地区のまちづくりビジョンに沿った建築等が進められていることが確認できる。			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	105	66	60	50	
		基準年度比(%)	△ 37.1	△ 42.9	△ 52.4	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	閑静な住宅地にふさわしい景観の形成や保護のため、必要な施策である。	5	地区計画制度の活用により、良好な景観の形成などの推進が図られている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年度における届出件数は50件となっており前年度より減少しているが、地区計画制度を活用した景観づくりの推進が図られている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進が必要。
総合評価(方向性)	地区計画により、その地区の建築等の確認を実施しており、地域の特性を活かした景観の形成保護が図られている。		

**(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	既存市街地における地区計画の決定					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	既存市街地における地区計画の決定	地区	11	11	11	11	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3	3	2	1
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80~100%)
2	ある程度進んでいる(50~79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護	担当課	財政課
施策	③ 農村の景観を向上させるため、景観緑肥や耕地防風林の保全、沿道景観づくりに努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	普通財産建物の空家棟数		現在利用していない古い旧教員住宅等の棟数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	棟	15	12	14	13	
	基準年度比(%)		△ 20.0	△ 6.7	△ 13.3	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	農村地域の景観保護のために必要な施策である。	5	旧十勝川温泉へき地保育所、旧鎮鍊小教員住宅(2棟)の解体を実施した。
24年度	3	農村地域の景観保護のために必要な施策である。	5	旧十勝川温泉職員住宅(1棟)の解体を実施した。
25年度	3	農村地域の景観保護のために必要な施策である。	5	旧下土幌会館管理人住宅(1棟)の解体を実施した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	年次計画に沿って解体を着実に実施することができた。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	年次計画に沿って現在使用していない古い教員住宅等の解体を実施している。今後は、老朽化の著しい建物の解体について、計画的に実施し、農村景観の向上を図る必要がある。		



**(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	普通財産建物解体		5,418	1,449	1,554	【】
合 計			5,418	1,449	1,554	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額			成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)	
			22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	建物解体棟数	棟		3	1	1	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護	担当課	農政課
施策	③ 農村の景観を向上させるため、景観緑肥や耕地防風林の保全、沿道景観づくりに努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	防風林の面積				奨励金を交付した防風林	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	a	78	23	0	10	
	基準年度比(%)		△ 70.5	△ 100.0	△ 87.2	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	耕地を風害から守るため、必要な施策である。		3	風害対策として防風林を造成した面積は約115aであり、施策は一定程度推進している。しかし、奨励金の交付申請件数(奨励金交付対象面積)が少なく、更なる推進が必要である。	
24年度	3	同上		3	風害対策として防風林を造成した面積は約115aであり、施策は一定程度推進している。しかし、奨励金の交付申請件数(奨励金交付対象面積)が少なく、更なる推進が必要である。	
25年度	3	同上		3	風害対策として防風林を造成した面積は約30aであり、施策は一定程度推進している。しかし、奨励金の交付申請件数(奨励金交付対象面積)が少なく、更なる推進が必要である。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	奨励金の交付申請件数は減少傾向にある。	施策の課題	耕地を風害から守るため、今後も現施策を推進していくが、関係機関との連携も含め、事業の周知が課題となっている。
総合評価(方向性)	景観緑肥や耕地防風林の造成は、風害対策としても効果的であるので、今後も引き続き施策の推進を図る。		

**(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護**      **施策③ - 2**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	耕地防風林造成事業	78	23		10	【】
合 計		78	23		10	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	事業による防風林の造成面積	a	78	23		10	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	2	2	1	2	1	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
						3		順調に進んでいる(80~100%)	
						2		ある程度進んでいる(50~79%)	
							1	遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	2.00	2.00	1.00	2.00	1.00			

施策区分	(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護	担当課	商工観光課
施策	③ 農村の景観を向上させるため、景観緑肥や耕地防風林の保全、沿道景観づくりに努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	ひまわり種子助成圃場面積		ひまわり種子助成を受けた圃場の面積			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	ha	0	31	26	17	
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	9割以上は町外集客であり、農村景観など身近で魅力ある観光素材の発掘等を推進し、継続的に情報を効果的にPRする必要性は高い。		5	音更ならではの農村風景・地域景観などの資源を活かした観光振興事業は、ここ数年で一定の効果は上がっている。今後も更に魅力を活かした企画や情報発信が望まれる。
24年度	4	同上		5	同上
25年度	4	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	種子助成圃場面積は減ってきているが、秋のひまわりは音更の農村景観として定着しており、観光客の期待も高い。	施策の課題	農業者への効果的な事業内容周知による圃場面積の増が求められている。
総合評価(方向性)	ひまわり種子の助成により、景観対策と観光事業を同時に実施することができ、引き続き事業の展開を図る。また、ひまわり種子助成について、場所や内容のより効果的な宣伝方法等を検討していく必要がある。		

**(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護**      **施策③ - 3**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	花を活用した観光地づくり		300	226	163	【】
合 計			300	226	163	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額			成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)	
			22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	ひまわり種子助成事業	ha		31	26	17	【H25】申込件数6件

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護	担当課	土地改良課
施策	③ 農村の景観を向上させるため、景観緑肥や耕地防風林の保全、沿道景観づくりに努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	農地・水支払交付金事業の活動面積		農地・水支払交付金事業において活動する組織の対象面積			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	ha	14,840	14,840	16,977	16,976	
		基準年度比(%)	0.0	14.4	14.4	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	水路・農道の維持管理及び農村環境保全ががこの事業により、推進されている。	5	各活動組織においては、水路・農道の草刈等の維持管理及び農村環境保全を事業予算内で計画どおり実施している。
24年度	4	活動組織は、24から25となり、協定面積も2,137ha増となり、事業の推進が図られた。	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	当該事業は、平成19年度に創設された「農地・水・環境保全向上対策」から「農地・水保管理支払い交付金」となり、各活動組織が、水路、道路の草刈りや農村環境保全の活動を実施している。	施策の題	平成26年度から「多面的機能支払」に制度が移行になり、活動組織も増となる予定であるが、地元の体制の問題もあり、まだ全町全域とはなっていない。
総合評価(方向性)	地域住民による活動を中心とした事業として効果は高いが、より取組やすい事業内容となるよう国に求めるとともに、活動している町民の負担を減らせるよう事業の進め方について検討する必要がある。		

**(3)地域の特性を活かした景観の形成、保護**      **施策③ - 4**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	農地・水保全管理支払事業	165,095	165,093	188,216	155,299	
合 計		165,095	165,093	188,216	155,299	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	活動面積	ha	14,840	14,840	16,977	16,976	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

達成度

3 順調に進んでいる(80~100%)

2 ある程度進んでいる(50~79%)

1 遅れがある、未着手(50%未満)



1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町の道路網は、北海道横断自動車道(高速道)、北バイパス(帯広北新道)、国道241号線(音更大通)と道道12路線を骨格とし、これらに接続する町道で形成されています。
- 北海道横断自動車道は、道東自動車道が占冠まで開通しており、平成23年度に夕張まで開通予定で、これにより十勝圏から札幌圏までの高速道の整備が完了します。道央圏、釧路圏、網走圏への早期全線開通が望まれています。北見・釧路間では整備方針が見直され、着工の見通しが示されていない区間もあります。また、高規格幹線道路の帯広・広尾間は平成20年度に中札内まで開通しましたが、大樹までの工事着手や大樹から広尾までの事業化は示されていません。
- 高速ネットワークの整備、促進により交通の利便性が大幅に向上されますが、消費の流出などの問題も心配されています。このため、道央圏などからの交流人口を増やし地域を活性化させていく方策として、道東自動車道の長流枝パーキングエリアのスマートインターチェンジ化が求められています。
- 国道241号線(音更大通)は、本町を含む北十勝各町と帯広市とを結ぶ唯一の都市間道路であり、北バイパス(帯広北新道)の開通後、大型車は減少しましたが、依然として全体の交通量は多く、特に木野市街地では変則的な車線構造のため危険性が高いことから、4車線整備が求められています。
- 道道は、隣接する市町村を結ぶ地域の主要幹線道路であり、歩道などの交通安全施設の整備のほか、帯広浦幌線などの整備計画路線の早期完成が求められています。また、道東自動車道音更帯広インターチェンジに近接している上士幌土幌音更線は、同インターチェンジと接続することで帯広市方面への最短ルートが確保され、高速道の札幌圏への開通後には一層の交通需要が見込まれることから、早期接続が求められています。
- 町道は、平成20年度現在、市街地で92.6%、農村部で49.8%、全体で60.2%の舗装率であり、未舗装路線の計画的な整備が求められています。また、舗装済路線の延命のため、計画的な補修が求められています。
- 町内の橋梁はすべて永久橋化されましたが、今後は「橋梁長寿命化修繕計画」に基づく計画的な管理が求められています。
- 降雪状況にあわせて速やかな除雪に努めていますが、除雪方法などについて町民の理解を促すことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 国道、道道で整備が必要な路線については積極的に要請するほか、これらに接続する町道の整備および適切で計画的な維持管理を推進し、誰もが安全で快適に利用できる道路環境整備に努めます。
- 快適な環境の創造や農業、観光などの産業の振興のため、高速ネットワークの促進をはかります。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

高速道路については、夕張・占冠間が開通し、スマートインターチェンジの設置に向けては検討を進めるなど利便性の更なる向上に向けた施策を推進した。また、国道241号線の4車線化に向けては、国に対する協議が効果をみせ、実現化に向けて着実な歩みを進めているほか、道道等の整備についても継続的な要請を行っている。町道の整備、維持については、市街地、農村部とも延伸による充実化、橋梁については、長寿命化計画に基づき、計画的な整備を進めている。除排雪については、受託業者との連携、町民の協力により適時的確な除雪を実施している。

(2)残されている課題等

高速道路網の早期開通による利便性の向上、国道241号線の4車線化の早期実現、除排雪体制の更なる充実を図る必要がある。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.38	分野全体の達成状況	B	A 計画どおり進んでいる(4.50~5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00~4.49) C 計画を下回っている(3.00~3.99) D 大幅に計画を下回っている(0~2.99)
------------	------	-----------	---	--



**5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策**

施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号
<b>(1) 高速道、高速ネットワークの整備促進</b>					
① 供用区間の利用促進をはかるため、PR活動に努めます。					
都市計画	5	5	5	高速道路の早期整備と利用促進を図り、平成23年度道東自動車道が道央圏と直結したことにより施策は達成された。	①-1
② 北海道横断自動車道の早期完成をめざし、関係機関に要請します。					
企画	5	5	5	平成23年度において、道央圏と道東圏が開通し、交通の利便性が大幅に増大した。今後も高速交通ネットワークに関して要請等を行い、交流人口の増加や地域活性化などを図る必要がある。	②-1
都市計画	5	5	5	今後は道東圏の整備に向け関係機関への要請を行っていく必要がある。	②-2
③ 帯広・広尾間の自動車専用道路の早期完成をめざし、関係機関に要請します。					
企画	4	5	5	帯広・広尾自動車道については、農業分野において十勝の海の玄関口である十勝港(広尾町)の小麦貯蔵施設への輸送時間短縮・安全面確保の観点から整備が求められており、今後も施策の推進が必要である。	③-1
都市計画	4	5	5	帯広・広尾間の整備は、産業振興の面からも、今後も供用延長に向けた要請を行っていく必要がある。	③-2
④ 高速ネットワークとのアクセス強化をはかるため、スマートインターチェンジ設置など関係機関に要請します。					
都市計画	4	3	3	スマートインターチェンジ設置に向け、必要性や場所の検討を十分に行いながら、関係機関へ要請していく必要がある。	④-1
<b>(2) 国道、道道の整備促進</b>					
① 国道241号線(音更大通)音更木野間の全線4車線化をめざし、関係機関に要請します。					
企画	2	4	4	国道241号線の4車線化については、町民からの要望も多く、交通安全や定時性の確保の観点から重要であるので、今後も更なる施策の推進が必要である。	①-1
都市計画	5	4	4	国道241号の4車線化については、住民要望も高いため、問題点等を整理しながら要請活動を今後も進めていく必要がある。	①-2
② 沿道の状況や交通量を的確に見極め計画的な道路整備が進むよう、関係機関に要請します。					
都市計画	4	3	3	町民ニーズを把握しながら、必要箇所について要請活動を行い、町内の道路環境の向上のために引き続き要請活動等を行っていく必要がある。	②-1
土木	4	3	3	町民ニーズを把握しながら、必要箇所について要請活動を行い、町内の道路環境の向上のために引き続き要請活動等を行っていく必要がある。	②-2
③ 音更帯広インターチェンジと上士幌士幌音更線の早期接続をめざし、関係機関に要請します。					
土木	4	4	4	工事については順調に進められ、平成26年度末に開通予定であり、施策の推進が図られている。	③-1
<b>(3) 町道の整備促進、維持補修</b>					
★ ① 交通ニーズに応じた整備手法を検討し、農村部の道路整備を進めます。					
土地改良	4	3	3	農道整備については、国の補助制度がないことから当該起債事業を財源として事業の緊急度・優先度を判断しながら進めている。このほか、既存農道については道営事業を活用している。引き続き他制度の活用等を検討し、財源確保を図る必要がある。	①-1

★ ② 道路状況に応じて、市街地における宅内道路の再整備などを進めます。

土木	5	4	4	住宅地における宅内道路は平成9年から事業着手し計画的に進めているが、交付金が充当されなくなったことと、物価の上昇の影響により、計画値に届いていない。町民生活の安全確保のため、優先順位等を把握しながら、引き続き計画的な整備に努める必要がある。	②-1
----	---	---	---	--	-----

③ 自転車や歩行者のための道路づくりをめざし、ネットワーク化の促進に努めます。

都市計画	5	5	5	幹線道路における交通安全の確保のために、街路事業を活用して、自転車歩行者道路の整備を引き続き進める必要がある。	③-1
土木	5	5	5	自転車、歩行者のための道路ネットワークづくりが推進されている。今後は、住民ニーズを把握しながら、より計画的に実施していく必要がある。	③-2

④ 誰もが利用しやすい、ユニバーサルデザインに配慮した道路整備に努めます。

都市計画	5	5	5	道道整備関及び予算計上状況等様々な課題があるものの、道路事業の整備に合わせて施策の推進が図られている。幼児や高齢者を含め住民が安全に歩行できる環境を整えることは事故防止にもつながるため、今後も現施策の推進に努める必要がある。	④-1
土木	5	4	4	道道整備関及び予算計上状況等様々な課題があるものの、道路事業の整備に合わせて施策の推進が図られている。幼児や高齢者を含め住民が安全に歩行できる環境を整えることは事故防止にもつながるため、今後も現施策の推進に努める必要がある。	④-2

⑤ 町民との協働による道路管理体制のあり方について、地域と連携して検討します。

土木	5	5	5	道路草刈補助により施策の推進が図られているが、多面的機能支払交付金が時限立法であるため、終了後の推進方法を町民の以降もふまえて検討する必要がある。	⑤-1
----	---	---	---	---	-----

⑥ 「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき適切な修繕を進め、長寿命化に努めます。

土木	5	5	5	橋梁点検、修繕計画策定、修繕工事着手と順調に推移している。今後国の予算配分等に注視しながら、計画に基づいた推進を図る必要がある。	⑥-1
----	---	---	---	--	-----

⑦ 道路の適切な維持補修により長寿命化に努めます。

土地改良	2	3	5	道路事業に関する予算の確保を行いながら、引き続き施策の推進を図る必要がある。	⑦-1
土木	5	5	5	道路に関する住民からの要望は多いため、緊急度により順番付けを行いながら、計画的に維持補修を行い長寿命化を図る必要がある。	⑦-2

(4) 迅速、的確な除排雪の推進

① 速やかな除雪体制の確保に努めます。

土木	5	5	5	冬期間における交通の利便性を向上させるため、速やかかつ継続的な除雪体制を構築し、実施していく必要がある。	①-1
----	---	---	---	--	-----

② 積雪状況に応じ、市街地などの的確な排雪に努めます。

土木	5	5	5	速やかな排雪作業を引き続き実施し、施策の推進を図る必要がある。	②-1
----	---	---	---	---------------------------------	-----

③ 坂道、交差点、歩道の滑り止めなど、町民の協力を得ながら冬道の安全確保に努めます。

広報広聴	5	5	5	町内会をはじめ町民の協力を得ながら冬道の安全確保を円滑に行うことは、協働のまちづくりの観点からも重要であるので、今後も施策の推進が必要である。	③-1
土木	4	4	4	住民の要望を把握しながら、より効率的に施策の推進を図るとともに、地域住民の協力を得られるような方策の検討も必要である。	③-2

(5) 道路の状況監視

① 道路パトロールの強化と町民からの情報の協力を得ながら道路の安全確保に努めます。

土木	3	3	3	道路パトロールについては、全ての路線を行うことは難しいことから、住民からの情報を得られるような体制の検討が必要である。	①-1
----	---	---	---	---	-----

全施策の推進状況の平均値

4.38 4.31 4.38

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「都市環境や都市基盤の整備について」の「道路の整備・管理」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	都市計画道路の整備率	都市計画道路(町道)における計画延長に対する整備率
3	宅内道路の再整備率	市街部における道路再整備事業の実施延長
4	宅内道路の再整備率	市街部における道路再整備事業の実施率
5	「都市環境や都市基盤の整備について」の「道路や歩道の除排雪」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	70.3	H20	68.50	65.2	68.6	73	H27	94.0
2	m	76.8	H21	77	77	77	78.3	H26	98.3
3	m	29,053	H21	34,207	36,020	37,993	39,553	H26	96.1
4	%	47.8	H21	56.3	59.3	62.5	65.1	H26	96.0
5	%	60.5	H20	63.5	58.5	60.9	66	H27	92.3
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)高速道、高速ネットワークの整備促進	担当課	都市計画課
施策	① 供用区間の利用促進をはかるため、PR活動に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	十勝清水～足寄・本別間における出入交通量				各年3月における日平均	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1		13,809	5,446	0	0	
		基準年度比(%)	△ 60.6	△ 100.0	△ 100.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	1	十勝スカイロードの利用促進を図るため、関係機関や各団体渡橋力及び連携し、各種事業の展開を行う必要がある。		5	道東自動車道が道央圏と直結したことにより施策は達成された。十勝スカイロード利用促進協議会は一定の役割を果たしたため平成24年3月26日をもって解散した。
24年度	1	同上		5	平成23年度をもって施策は達成された。
25年度	1	同上		5	同上
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成22年度は、高速無料化社会実験の影響で交通量が大きく増えており、実験終了後の23年度に減っている。無料化社会実験期間を除けば、利用者は堅調に増加した。	施策の課題	施策を達成したため、課題等は特にはない。
総合評価(方向性)	高速道路の早期整備と利用促進を図り、平成23年度道東自動車道が道央圏と直結したことにより施策は達成された。		

(1) 高速道、高速ネットワークの整備促進 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	十勝スカイロード利用促進協議会					【】道東自動車道の道央圏との直結により、建設促進に向けた活動が一定の役割を果たしたことからH24.3.26をもって解散
合 計						

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	湯～遊～キャンペーン	件	5,250	3,525			【】事業自体はネクスコ、十勝観光連盟が主催となり継続

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3					3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
						3		順調に進んでいる(80～100%)	
						2		ある程度進んでいる(50～79%)	
						1		遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00							

施策区分	(1)高速道、高速ネットワークの整備促進	担当課	企画課
施策	② 北海道横断自動車道の早期完成をめざし、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	北海道横断自動車道の供用延長		北海道横断自動車道の供用延長			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	km	218	252	252	252	
		基準年度比(%)	15.6	15.6	15.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	北海道横断自動車道の整備は、十勝圏域の均衡ある発展及び生活領域の拡大を図るために必要な施策である。	5	23年度において、供用延長は34km増加した。
24年度	3	前年度と同様に、十勝圏域の均衡ある発展及び生活領域の拡大を図るために必要な施策である。	5	24年度において、供用延長は変わっていないが、根室線、網走線について建設が進められている。
25年度	3	同上	5	25年度においても、供用延長は変わっていないが、根室線、網走線について建設が進められている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	継続的に関係機関への要請活動を行っており、23年度においては、道東自動車道夕張IC~占冠IC間が開通し、道東圏と道央圏が高速道路で結ばれ、交通利便性が大幅に向上した。24年度以降についても根室線、網走線の建設が進められており、高速交通ネットワークの整備が進んでいる。	施策の課題	今後も整備が順調に進められるよう施策を推進するが、スロー効果などにより経済活動が拠点に集中する可能性もあることから対策が課題となっている。
総合評価(方向性)	平成23年度において、道央圏と道東圏が開通し、交通の利便性が大幅に増大した。今後も高速交通ネットワークに関して要請等を行い、交流人口の増加や地域活性化などを図る必要がある。		

**(1) 高速道、高速ネットワークの整備促進**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	十勝圏活性化推進期成会での要請(道路)					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	関係機関への要請回数	回	3	3	4	4	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
							2	ある程度進んでいる(50~79%)	
							1	遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(1)高速道、高速ネットワークの整備促進	担当課	都市計画課
施策	② 北海道横断自動車道の早期完成をめざし、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	北海道横断自動車道の供用延長				北海道横断自動車道の供用延長	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	km	218	252	252	252	
		基準年度比(%)	15.6	15.6	15.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	北海道横断自動車道の整備は、十勝圏域の均衡ある発展及び生活領域の拡大を図るために必要な施策である。		5	23年度において、供用延長は34km増加した。
24年度	3	同上		5	24年度において、供用延長は変わっていないが、根室線、網走線について建設が進められている。
25年度	3	同上		5	25年度において、供用延長は変わっていないが、根室線、網走線について建設が進められている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成25年度における供用延長は無かったが、根室線、網走線について建設が進められており、高速道、高速ネットワークの整備促進がはかられている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	今後は道東圏の整備に向け関係機関への要請を行っていく必要がある。		



**(1) 高速道、高速ネットワークの整備促進**      **施策② - 2**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	北海道横断自動車道早期建設促進期成会負担金	50	50	50	50	【】
2	北海道横断自動車道十勝地区早期建設促進期成会負担金	34	48	61	51	【】
合 計		84	98	111	101	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	関係機関への要請回数		4	4	4	4	【】
2	関係機関への要請回数		6	5	3	3	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	3	2	3	2	3		
							達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(1)高速道、高速ネットワークの整備促進	担当課	企画課
施策	③ 帯広・広尾間の自動車専用道路の早期完成をめざし、関係機関に要請します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	帯広・広尾自動車道の供用延長		帯広・広尾自動車道の供用延長			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	km	35.4	35.4	41.9	42.0	
		基準年度比(%)	0.0	18.4	18.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	十勝圏域の均衡ある発展及び生活領域の拡大を図るために必要な施策であり、計画区間(大樹～広尾)の早期事業着手を強く進める必要がある。	4	23年度において整備は進められているが、供用延長は前年度と同様になっている。
24年度	4	前年度と同様に、十勝圏域の均衡ある発展及び生活領域の拡大を図るために必要な施策である。	5	24年度において、供用延長は6.5km増加した。
25年度	4	同上	5	25年度においても整備は進められているが、供用延長は前年度と同様になっている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	継続的に要請活動を行っており、整備は順調に進められている。平成25年3月には中札内IC～更別IC間が開通し、交通便利性が向上している。	施策の課題	施策の課題は特になく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	帯広・広尾自動車道については、農業分野において十勝の海の玄関口である十勝港(広尾町)の小麦貯蔵施設への輸送時間短縮・安全面確保の観点から整備が求められており、今後も施策の推進が必要である。		

**(1) 高速道、高速ネットワークの整備促進**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	十勝圏活性化推進期成会での要請(道路)					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	関係機関への要請回数	回	3	3	4	4	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	2	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
							達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	2.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(1)高速道、高速ネットワークの整備促進	担当課	都市計画課
施策	③ 帯広・広尾間の自動車専用道路の早期完成をめざし、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	帯広・広尾自動車道の供用延長		帯広・広尾自動車道の供用延長			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	km	35.4	35.4	41.9	42.0	
		基準年度比(%)	0.0	18.4	18.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	十勝圏域の均衡ある発展及び生活領域の拡大を図るために必要な施策であり、計画区間(大樹～広尾)の早期事業着手を強く進める必要がある。	4	23年度において整備は進められているが、供用延長は前年度と同様になっている。
24年度	4	同上	5	24年度において、供用延長は6.5km増加した。
25年度	4	同上	5	25年度において、供用延長は無かったが、整備は進められている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年度における供用延長は無かったが、更別～忠類大樹間では建設が進められており、高速道、高速ネットワークの整備促進がはかられている。	施策の課題	施策に課題等はなく現施策により推進する。
総合評価(方向性)	帯広・広尾間の整備は、産業振興の面からも、今後も供用延長に向けた要請を行っていく必要がある。		

**(1)高速道、高速ネットワークの整備促進**      **施策③ - 2**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	高規格幹線道路帯広広尾自動車道早期建設促進期成会負担金	55	55	62	70	【】
合 計		55	55	62	70	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	関係機関への要請回数	回	3	2	2	3	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	2	2	3	2	3	3	2	1
平均	2.00	2.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(1)高速道、高速ネットワークの整備促進	担当課	都市計画課
施策	④ 高速ネットワークとのアクセス強化をはかるため、スマートインターチェンジ設置など関係機関に要請します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	検討資料の作成		関係期間協議用資料の作成			
数値2	関係機関による勉強会の開催		スマートインターチェンジの設置に向けての課題等を協議			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	式	0	1	0	0	
	基準年度比(%)					
数値2	回	0	0	1	1	
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	道央圏などからの交流人口を増やし、地域を活性化させていく方策として、必要な施策である。	4	スマートICの設置に向けた関係機関協議用資料の作成を行った。
24年度	4	同上	3	スマートインターチェンジの設置に向けての勉強会を開催したが、勉強会の進め方に工夫が必要。
25年度	4	同上	3	関係機関との協議を進めるために、一つ一つの課題の精査が必要。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成24年度から勉強会を開催し、平成26年度での新規検討資料作成業務発注の準備を進めた。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	スマートインターチェンジ設置に向け、必要性や場所の検討を十分に行いながら、関係機関へ要請していく必要がある。		



施策区分	(2)国道、道道の整備促進	担当課	企画課
施策	① 国道241号線(音更大通)音更木野間の全線4車線化をめざし、関係機関に要請します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	要請回数					
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	0	0	4	5	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	国道241号(音更大通)は、本町を含む北十勝各町と帯広市を結ぶ交通の大動脈であるが、交通量が多く混雑が発生しており交通安全対策や渋滞緩和が急務となっていることから、交通ネットワークの整備促進を図るために必要な施策である。	2	国道241号線木野市街地の4車線化整備について、十勝圏活性化推進期成会等における次年度以降の要望活動に関して検討を始めた。
24年度	4	前年度と同様に交通ネットワークの整備促進を図るために必要な施策である。	4	国道241号線木野市街地の4車線化整備について、十勝圏活性化推進期成会等において国等への要請活動を行った。
25年度	4	同上	4	前年度と同様に十勝圏活性化推進期成会等での要請活動を行ったほか、北十勝4町国道整備促進期成会を設立し、国への要請活動を行った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成24年度以降、十勝圏活性化推進期成会等において、国等への要請を開始し、25年度には、北十勝4町国道整備促進期成会を設立し、本格的な要請活動を進めている。	施策の課題	国道241号線の整備促進については、国の管轄事業となることから、事業採択までには相当な時間を要することが予想される。
総合評価(方向性)	国道241号線の4車線化については、町民からの要望も多く、交通安全や定時性の確保の観点から重要であるので、今後も更なる施策の推進が必要である。		



(2) 国道、道道の整備促進 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	十勝圏活性化推進期成会及び北十勝4町国道整備促進期成会での要請(道路)					【】
合 計						

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	関係機関への要請回数	回			4	5	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	1	2	2	2	2	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度
							3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00		

施策区分	(2)国道、道道の整備促進	担当課	都市計画課
施策	① 国道241号線(音更大通)音更木野間の全線4車線化をめざし、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	懇談会等の開催回数				国道241号線に係る交通課題検討のための懇談会等の開催回数。	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	0	3	2	1	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	朝夕の通勤、帰宅時に混雑が発生している交通安全への短期的な取り組みにより混雑が増すことが予想されることから、早期に4車線化する必要がある		5	十勝圏活性化促進期成会の重点要望事項として、帯広開発建設部、十勝総合振興局、北海道開発局、北海道、国土交通省及び道内選出国會議員に対して要請を行っている。	
24年度	5	同上		4	同上	
25年度	5	同上		4	同上	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成25年度においても、あらゆる機会を通じて要望活動を積み重ねている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	国道241号の4車線化については、住民要望も高いため、問題点等を整理しながら要請活動を今後も進めていく必要がある。		

(2) 国道、道道の整備促進 施策① - 2

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	国道241号線4車線化の要請					【】
合 計						

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	交通課題検討のための懇談会の開催	回		3	2	1	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(2)国道、道道の整備促進	担当課	都市計画課
施策	② 沿道の状況や交通量を的確に見極め計画的な道路整備が進むよう、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	鈴蘭公園通の整備		街路事業による整備延長			
数値2	国見通の整備		道路事業による整備延長			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	641.0	641.0	0.0	0.0	【22年度は、641mを整備しているが暫定断面である】 【23年度は、24年度に歩道の一部舗装を残すのみである】 【24年度は歩道舗装340m、植樹工】
	基準年度比(%)		0.0	△ 100.0	△ 100.0	
数値2	m	0	540	0	0	【22年度は植樹工と用地買収】 【23年度は一部の用地未買収部分は歩道及び車道の一部未整備】
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	4	道道は、国道に次ぐ幹線道路であり、町内の道路環境の向上のためにも必要な施策である。		4	鈴蘭公園通は完成の目処が付いた。 国見通は一部用地未買収により幅員の不足はあるが車道4車で供用されている。 音更中央通は事業着手が出来ていない。	
24年度	4	同上		3	関係機関への要請を行い、鈴蘭公園通と国見通の整備は進んでいるが、音更中央通は事業着手に至っていない。	
25年度	4	関係機関への要請を行い、公園通と国見通の整備は事業が完了したが、音更中央通りは事業着手に至っていない。		3	関係機関へ要請を行い、鈴蘭公園通、国見通は事業が完了したが、音更中央通は事業着手には至っていない。	
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	鈴蘭公園通及び国見通は、平成24年度をもって事業完了したが、音更中央通は着手に至っていない。	施策の題	音更中央通については、関係機関、関係者等との間における計画や意見の調整に時間を要している。
総合評価(方向性)	町民ニーズを把握しながら、必要箇所について要請活動を行い、町内の道路環境の向上のために引き続き要請活動等を行っていく必要がある。		

(2) 国道、道道の整備促進 施策② - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	北海道等関係機関への要請(帯広新得線の早期完成)					【】
2	北海道等関係機関への要請(鈴蘭公園通街路の早期完成)	987	6,489			【】
3	北海道等関係機関への要請(音更中央通街路の早期完成)					【】
合 計		987	6,489			

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	帯広新得線の整備延長	m		540			【22年度は植樹工と用地買収】 【23年度は一部の用地未買収部の歩道及び車道の一部未整備】
2	鈴蘭公園通街路の整備延長	m	641	641			【22年度は、641mを整備しているが暫定断面である】 【23年度は、24年度に歩道の一部舗装を残すのみ】 【24年度は歩道舗装340m、植樹工】
3	音更中央通街路の整備延長	m					【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	2	1	2	1	2	1	2	1	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	2.33	2.33	2.67	2.33	2.67	2.33		3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	

施策区分	(2)国道、道道の整備促進	担当課	土木課
施策	② 沿道の状況や交通量を的確に見極め計画的な道路整備が進むよう、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	道路整備に係る事業費				道路整備に係る用地買収補償費及び工事費等事業費	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	107,197	71,435	165,694	53,345	
		基準年度比(%)	△ 33.4	54.6	△ 50.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	4	道道は、国道に次ぐ幹線道路であり、町内の道路環境の向上のためにも必要な施策である。		4	鈴蘭公園通は完成の目処が付いた 国見通は一部用地未買収により幅員の不足はあるが車道4車で供用されている 音更中央通は事業着手が出来ていない	
24年度	4	同上		3	関係機関への要請を行い、鈴蘭公園通と国見通の整備は進んでいるが、音更中央通は事業着手に至っていない。	
25年度	4	関係機関への要請を行い、公園通と国見通の整備は事業が完了したが、音更中央通りは事業着手に至っていない。		3	関係機関へ要請を行い、鈴蘭公園通、国見通は事業が完了したが、音更中央通は事業着手には至っていない。	
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	工事着手に先だって用地買収、補償契約を進め、随時工事に着手している状況となっている。	施策の題	用地買収、補償契約について随時、交渉、契約締結を進めているところであるが、一部対応に苦慮している状況。
総合評価(方向性)	町民ニーズを把握しながら、必要箇所について要請活動を行い、町内の道路環境の向上のために引き続き要請活動等を行っていく必要がある。		

(2) 国道、道道の整備促進 施策② - 2

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	北海道等関係機関への要請(帯広浦幌線(翠柳大橋以東))	107,197	71,435	165,694	53,345	
合 計		107,197	71,435	165,694	53,345	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	整備延長	m			313		【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1			2	2	2	2		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
							2	ある程度進んでいる(50~79%)	
							1	遅れがある、未着手(50%未満)	
平均			2.00	2.00	2.00	2.00			

施策区分	(2)国道、道道の整備促進	担当課	土木課
施策	③ 音更帯広インターチェンジと上士幌士幌音更線の早期接続をめざし、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1						
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1						
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	札幌まで道東道が開通したこともあって、木野市街から音更帯広インターチェンジへのアクセス向上が望まれている状況であり、必要な施策である。	4	要請とともに、起点部の用地買収を実施した。
24年度	3	同上	4	同上
25年度	3	同上	4	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	北海道において、当初用地処理(買収)等で難航した経過があるが、今日においては解決している。平成26年度開通に向けて進められている状況である。	施策の課題	課題は特になく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	工事については順調に進められ、平成26年度末に開通予定であり、施策の推進が図られている。		



(2) 国道、道道の整備促進 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
合 計		32,040	12,245	76,075	301,000	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
							【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
								3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2 貢献している(施策を推進する事務事業)
								1 貢献していない。
								施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80~100%)
								2 ある程度進んでいる(50~79%)
								1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均			2.00	2.00	2.00	2.00		

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土地改良課
施策	① 交通ニーズに応じた整備手法を検討し、農村部の道路整備を進めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	ふるさと農道整備事業実施延長				事業で実施される改良・舗装工事の延長	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	1,106	230	542	559	【22】歩道延長 L=1,106m、【23】道路改良・舗装 L=230m、【24】道路改良・舗装 L=542m、【25】道路改良・舗装 L=559m
		基準年度比(%)	△ 79.2	△ 51.0	△ 49.5	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	農村部の道路整備は必要な施策であるが、要望に対して実施地区は1地区のみとなっており、早急に推進することが望まれる。		4	ふるさと農道整備事業により230mの道路延長を実施した。
24年度	5	同上		3	ふるさと農道整備事業により542mの道路延長を実施し、当該地区は平成26年度完成の計画となっている。
25年度	5	同上		3	下土幌地区については、平成26年度完了予定であるが、農村部全体の進捗率は進んでいない。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成23年度に着手した下土幌地区を、平成25年度に559mの改良・舗装を実施した。	施策の課題	現状の施策を推進していくが、平成26年度以降は1地区の改良工事の予定に対して、農村部の要望量は12路線もあるため、制度の活用等を検討し、財源確保を図る必要がある。
総合評価(方向性)	農道整備については、国の補助制度がないことから当該起債事業を財源として事業の緊急度・優先度を判断しながら進めている。このほか、既存農道については道営事業を活用している。引き続き他制度の活用等を検討し、財源確保を図る必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	ふるさと農道緊急整備事業	49,440	37,188	77,505	99,538	
合 計		49,440	37,188	77,505	99,538	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	実施延長	m	(歩)1106	(改・舗)230	(改・舗)542	(改・舗)559	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	1	3	1	3	1	3	2	1
								1	
平均	3.00	1.00	3.00	1.00	3.00	1.00			

- 貢献度**
- 3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
  - 2 貢献している(施策を推進する事務事業)
  - 1 貢献していない。
- 達成度**
- 3 順調に進んでいる(80~100%)
  - 2 ある程度進んでいる(50~79%)
  - 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土木課
施策	② 道路状況に応じて、市街地における宅内道路の再整備などを進めます。		重点施策

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	宅内道路整備延長		整備が完了した宅内道路の総延長			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	31,616.3	34,206.6	36,019.5	37,993.0	
		基準年度比(%)	8.2	13.9	20.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	当該施策については、昭和40年～昭和60年にかけて簡易舗装にて一次改良を施した住宅地内道路について凍上による不陸が多く見受けられていたことから、平成9年より工事着手している。近年は更に老朽が進み早急に整備することが望まれており、必要な施策である。	5	平成23年度は2,590mの整備が完了し、概ね計画どおり進んでいる。
24年度	5	同上	4	平成24年度は、約1,800mの整備を完了した。昨年度に比べ、約800m減少している状況。
25年度	5	同上	4	平成25年度は前年度同様、約1,800mの整備を完了した。総合計画目標数値に対して約300m/年不足している状況。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年度までの総整備延長は37,992.96mであり、整備計画延長76,439.76mに対し、49.5%完了している。	施策の題	平成21年度～平成23年度までは地域活性化きめこまやかな交付金が充当されていたこともあって、順調に推移していたが、現在においては充当されなくなったため、年間整備延長が2,100m/年(総合計画値)に届いていない。更に平成23年度～平成25年度の平均年間整備延長も総合計画値に届いていない状況。今後も現施策による推進を図る必要がある。
総合評価(方向性)	住宅地における宅内道路は平成9年から事業着手し計画的に進めているが、交付金が充当されなくなったことと、物価の上昇の影響により、計画値に届いていない。町民生活の安全確保のため、優先順位等を把握しながら、引き続き計画的な整備に努める必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	宅内道路整備	163,840	180,646	126,845	164,796	【】
合 計		163,840	180,646	126,845	164,796	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	宅内道路整備延長	m	3,189	2,590	1,833	1,793	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3	3	2	3	2	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度
							3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	3.00	3.00	3.00	2.00	3.00	2.00		

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	都市計画課
施策	③ 自転車や歩行者のための道路づくりをめざし、ネットワーク化の促進に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	自転車歩行者道の整備延長		街路事業により自転車歩行者道の整備をしている			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	187	70	13	12	
		基準年度比(%)	△ 62.6	△ 93.0	△ 93.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	町内の道路環境向上のため、必要な施策である。	5	街路事業により70mの自転車歩行者道が整備された
24年度	4	同上	5	街路事業により13mの自転車歩行者道が整備された
25年度	4	同上	5	街路事業により12mの自転車歩行者道が整備された
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年度においては事業認可年度であり進捗率は伸びなかったが次年度より推進予定であるため順調に進んでいる。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	幹線道路における交通安全の確保のために、街路事業を活用して、自転車歩行者道路の整備を引き続き進める必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	自転車歩行者道の整備	11,186	15,583	13,151	25,292	【】
合 計		11,186	15,583	13,151	25,292	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	自転車歩行者道の整備延長	m	187	70	13	12	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土木課
施策	③ 自転車や歩行者のための道路づくりをめざし、ネットワーク化の促進に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	当該人道橋に要した費用		平成24年度 調査設計 平成25年度 橋梁施工			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	0	0	5,449	15,960	
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町内の道路環境向上のため、必要な施策である。	5	共栄団地と国道沿線の商業施設へのアクセス向上を目的とする整備が必要となったため、事業実施に向けて準備を進めた。
24年度	3	同上	5	平成24年度に調査設計、河川協議を了しており順調に推移している。平成25年度で工事完了予定。
25年度	1	事業完了による。	5	平成25年度工事完了した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成24年度に調査設計、河川協議等を了し、平成25年度工事完了した。	施策の題	当橋で音更町の管理橋が393橋(うち道路橋383橋)となり、維持管理に苦慮している状況にある。
総合評価(方向性)	自転車、歩行者のための道路ネットワークづくりが推進されている。今後は、住民ニーズを把握しながら、より計画的に実施していく必要がある。		



**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策③ - 2**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	調査設計委託業務			5,449		【】
2	人道橋新設工事				15,960	【】
合 計				5,449	15,960	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	調査設計委託業務	式			1		【共栄歩道橋としてH25に完成開通している】
2	人道橋新設工事	m				13	【共栄歩道橋としてH25に完成開通している】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1			2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度	
2									
平均			2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	都市計画課
施策	④ 誰もが利用しやすい、ユニバーサルデザインに配慮した道路整備に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	街路事業による歩道設置延長		街路事業により設置された歩道の延長			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	187.0	70.0	13.0	12.0	
		基準年度比(%)	△ 62.6	△ 93.0	△ 93.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	高齢化社会に対応すべく段差の少ない歩道整備が必要である。	5	街路事業により70mの歩道が整備がされた。
24年度	4	同上	5	街路事業により13mの歩道が整備がされた。
25年度	4	同上	5	街路事業により12mの歩道が整備がされた。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	H25年度においては事業認可年度であり進捗率は伸びなかったが次年度より推進予定であるため順調に進んでいる。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	道道整備関及び予算計上状況等様々な課題があるものの、道路事業の整備に合わせて施策の推進が図られている。幼児や高齢者を含め住民が安全に歩行できる環境を整えることは事故防止にもつながるため、今後も現施策の推進に努める必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策④ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道路事業による歩道設置延長	11,186	15,583	13,151	25,292	【】
合 計		11,186	15,583	13,151	25,292	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	街路の整備	m	187	70	13	12	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

達成度

3 順調に進んでいる(80~100%)

2 ある程度進んでいる(50~79%)

1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土木課
施策	④ 誰もが利用しやすい、ユニバーサルデザインに配慮した道路整備に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	道路事業による歩道設置延長		道路事業により設置された歩道の延長			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	0.0	268.0	0.0	433.3	宝来東4号道路 L=102.2m 音更然別1号道路 L=69.02m
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	高齢化社会に対応すべく段差の少ない歩道整備が必要である。	5	道路整備事業により、268mの歩道整備を行った。
24年度	3	同上	4	平成24年度については、調査設計、用地買収等を行った。一部交付金事業については要望額どおりの予算が交付されていない状況下にある。
25年度	3	同上	4	宝来東4号道路については、197.52m、音更然別1号道路については235.74mを整備した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	宝来東4号については、平成25年度までに466m整備した。音更然別1号については、236m整備が完了し、道道上土幌音更線の整備に併せ進捗予定。	施策の題	宝来東4号道路については、一部用地買収が難航している。今後は道道帯広浦幌線整備に併せて整備する。現施策により推進していくが、要望額を下回る予算配分がされており、事業の進捗がやや遅れている状況。
総合評価(方向性)	道道整備関及び予算計上状況等様々な課題があるものの、道路事業の整備に合わせて施策の推進が図られている。幼児や高齢者を含め住民が安全に歩行できる環境を整えることは事故防止にもつながるため、今後も現施策の推進に努める必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策④ - 2**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	宝来東4号道路		79,045	16,468	49,015	【一部を除き用地買収等完了。道道帯広浦幌線の整備に併せて施行中】
2	音更木野間基線交差点改良					【用地交渉が難航している状態である】
3	道道帯広浦幌線整備関連事業(用地取得)				1,339	【H25用地処理等完了】
合 計			79,045	16,468	50,354	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	宝来東4号道路	m		268		198	【】
2	音更木野間基線交差点改良	m					【用地買収難航のため停滞している】
3	道道帯広浦幌線整備関連事業(用地取得)	式				1	【用地取得完了】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	2	2	2	2	2	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
2									
3					3	3			
							達成度		
平均	2.00	2.00	2.00	2.00	2.50	2.50			

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土木課
施策	⑤ 町民との協働による道路管理体制のあり方について、地域と連携して検討します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	道路草刈補助		道路草刈補助に係る事業費			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	1,797	1,571	1,246	1,265	
	基準年度比(%)		△ 12.6	△ 30.7	△ 29.6	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	町道の管理については地域との協働が重要であり、必要な施策である。	5	年2回の草刈は概ね実施されている。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	多面的機能支払交付金制度との棲み分けにより施策の推進がされている。	施策の課題	多面的機能支払交付金が時限立法であるため終了後の推進方法に課題がある。
総合評価(方向性)	道路草刈補助により施策の推進が図られているが、多面的機能支払交付金が時限立法であるため、終了後の推進方法を町民の以降もふまえて検討する必要がある。		



施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土木課
施策	⑥「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき適切な修繕を進め、長寿命化に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	橋梁長寿命化修繕計画策定		橋梁長寿命化修繕計画の策定			
数値2	橋梁長寿命化修繕事業(工事等)		上記に基づいて橋梁の修繕を行う			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	5,618	3,675	24,124	0	
	基準年度比(%)		△ 34.6	329.4	△ 100.0	
数値2	千円	0.0	10,589.0	40,950.0	47,349.0	
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	「橋梁長寿命化計画」に基づき、橋梁の健全度を維持するため必要な施策である。		5	3カ年に分けて実施している2年目である。平成23年度 一部工事着手
24年度	3	同上		5	「橋梁長寿命化修繕計画」策定の最終年であり、策定は完了した。修繕工事については計画どおり実施している
25年度	3	同上		5	「橋梁長寿命化修繕計画」に基づいた修繕を進めることによって管理橋の健全化を図っている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	橋梁点検から修繕計画策定、工事実施までは順調に推移している。	施策の題	工事実施まで順調に推移しているが、点検頻度方法が改訂されたことによる修繕計画の見直しが必要である。
総合評価(方向性)	橋梁点検、修繕計画策定、修繕工事着手と順調に推移している。今後国の予算配分等に注視しながら、計画に基づいた推進を図る必要がある。		



**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策⑥ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	橋梁長寿命化修繕計画の策定	5,618	3,675	5,329		【】
2	橋梁長寿命化修繕事業(工事等)		10,589	22,155	34,119	【】
3	高欄塗装工事			18,795	13,230	【】
合 計		5,618	14,264	46,279	47,349	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	橋梁長寿命化修繕計画の策定	式			1		24年度の策定を目指し、3か年で策定する。
2	橋梁長寿命化修繕事業(工事等)	橋		1	1	1	【年度間重複橋梁あり】
3	高欄塗装工事	式			1	1	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3			3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
2	2	2	3	2	3	3			
3			3	2	3	2			
							達成度		
平均	2.50	2.50	3.00	2.33	3.00	2.50			

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土地改良課
施策	⑦ 道路の適切な維持補修により長寿命化に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	農道保全対策実施内容				音更1、音更2地区で実施された工事内容	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	式	1	0	1	1	【22・23】点検診断及び調査設計測量 【24】法面補修(212m)及び調査設計測量 【25】交差点改良1箇所及び道路修繕3470m
	基準年度比(%)		△ 100.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	農道整備事業を活用した適切な維持補修は、必要な施策である。		2	平成24年度より、工事着手した。
24年度	4	同上		3	法面補修 L=212mを実施した。
25年度	4	同上		5	交差点改良1箇所及び道路修繕3470mを実施した。音更1地区は平成25年度完了し、音更2地区は平成26年度完了予定である。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成22年度より農林水産省の事業で整備された道路の補修、交通安全対策を実施しており、平成25年度は、2地区で交差点改良1箇所と道路修繕3470mを実施した。	施策の題	音更2地区は、事業費の関係により2地区に分割しているため、今後も現施策を推進していく。
総合評価(方向性)	道路事業に関する予算の確保を行いながら、引き続き施策の推進を図る必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策⑦ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	農地・水保全管理支払事業	165,095	165,093	188,216	155,029	
2	音更1地区道営農道保全対策事業	9,713	10,710	38,073	66,357	
3	音更2地区道営農道保全対策事業		72,521	12,968	58,728	
合 計		174,808	248,324	239,257	280,114	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	活動面積	ha	14,840	14,840	16,977	16,977	
2	実施延長	式		1	1	1	
3	実施延長	式		1	1	1	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	3	3	3	3	3	3	3	3	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3	2

**施策に対する事務事業の貢献度**

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)

2 貢献している(施策を推進する事務事業)

1 貢献していない。

**施策に対する事務事業の達成度**

3 順調に進んでいる(80~100%)

2 ある程度進んでいる(50~79%)

1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)町道の整備促進、維持補修	担当課	土木課
施策	⑦ 道路の適切な維持補修により長寿命化に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	本施策に係る事業費		宅内町道雨水柵修繕、舗装道路長寿命化修繕事業(郡部)、舗装道路長寿命化修繕事業(市街地)、音更然別北9線・東和3号(IC関連及び産業幹線)、宝来藤が丘階段補修、町道修繕、町道舗装修繕			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	7,700	129,857	147,091	119,139	
	基準年度比(%)		1586.5	1810.3	1447.3	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町内道路環境のため、必要な施策である。	5	住民からの要望に対し完全に対応できていないが、一定の理解は得られているものと考えている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	事業の実施に当たっては、行政区等からの要望に基づいて推進している。	施策の課題	経年劣化していく延長に対し修繕出来る延長が追い付かない状況にある。
総合評価(方向性)	道路に関する住民からの要望は多いため、緊急度により順番付けを行いながら、計画的に維持補修を行い長寿命化を図る必要がある。		

**(3)町道の整備促進、維持補修**      **施策⑦ - 2**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	宅内町道雨水柵修繕	7,700	7,700			【】
2	舗装道路長寿命化修繕事業(郡部)		63,661	86,069	79,296	【】
3	舗装道路長寿命化修繕事業(市街地)		30,702	33,810		【】
4	音更然別北9線・東和3号(IC関連及び産業幹線)		23,090			【】
5	宝来藤が丘階段補修		4,704			【】
6	町道修繕			8,138	21,499	【】
7	町道舗装修繕			19,074	18,344	【】
<b>合 計</b>		<b>7,700</b>	<b>129,857</b>	<b>147,091</b>	<b>119,139</b>	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	宅内町道雨水柵修繕	式	1	1			【】
2	舗装道路長寿命化修繕事業(郡部)	式		1	1	1	【】
3	舗装道路長寿命化修繕事業(市街地)	式		1	1		【】
4	音更然別北9線・東和3号(IC関連及び産業幹線)	式		1			【】
5	宝来藤が丘階段補修	式		1			【】
6	町道修繕	式			1	1	【】
7	町道舗装修繕	式			1	1	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3					3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	2	2	2	2	3		
3	2	2	2	2				
4	2	2					3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
5	2	2						
6			2	2	2	2		
7			2	2	2	2		
平均	2.20	2.20	2.00	2.00	2.00	2.33		

施策区分	(4)迅速、的確な除排雪の推進	担当課	土木課
施策	① 速やかな除雪体制の確保に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	除・排雪費		除・排雪に係る事業費			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	129,185	220,727	327,701	149,976	
		基準年度比(%)	70.9	153.7	16.1	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	冬期間の交通の利便性を確保するため、必要な施策である。	5	除雪体制の構築により、的確な除雪作業に努めている。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	除雪事業者による適時的確な除雪を実施できている。	施策の課題	除雪業務受託業者の確保に向けた取り組みが課題となっている。
総合評価(方向性)	冬期間における交通の利便性を向上させるため、速やかかつ継続的な除雪体制を構築し、実施していく必要がある。		



施策区分	(4)迅速、的確な除排雪の推進	担当課	土木課
施策	② 積雪状況に応じ、市街地などの的確な排雪に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	除・排雪費				除・排雪に係る事業費	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	129,185	220,727	327,701	149,976	
		基準年度比(%)	70.9	153.7	16.1	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	市街地等の路線は、通学路やバス路線との兼ね合いもあり積雪に応じた排雪は必要な施策である。		5	路線の状況を調査の上、的確な排雪に努めている。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	必要個所の排雪は適時的確に実施出来ている。	施策の課題	ゲリラ豪雨のような局地的な豪雪にも対応できるのが課題である。
総合評価(方向性)	速やかな排雪作業を引き続き実施し、施策の推進を図る必要がある。		





施策区分	(4)迅速、的確な除排雪の推進	担当課	広報広聴課
施策	③ 坂道、交差点、歩道の滑り止めなど、町民の協力を得ながら冬道の安全確保に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	「潤いと思いやりの地域づくり事業<地域福祉・安全事業(除排雪)>」の申請件数				町内会組織などを中心とする「潤いと思いやりの地域づくり事業」における地域福祉・安全事業(除排雪)の申請件数(年間)	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	3	5	6	4	
	基準年度比(%)		66.7	100.0	33.3	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	冬道の安全確保には、行政が行う除雪等に加えて、細部にわたって道路、交差点の除排雪を行うなど、町民の協力が不可欠である。		5	降雪状況により違いはあるが、町内会組織はじめ町民が自主的に取り組んでいる。
24年度	4	同上		5	自分たちが住む地域の安全確保のために、町内会はじめ町民が積極的に取り組んでいる。
25年度	4	同上		5	降雪状況により毎年違いはあり、対比で申請件数は減少しているが、町内会をはじめ町民が積極的に取り組んでいる。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	町民の協力を得ながら、冬道の安全確保のために必要な除雪を実施している。	施策の題	施策に課題等はなく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	町内会をはじめ町民の協力を得ながら冬道の安全確保を円滑に行うことは、協働のまちづくりの観点からも重要であるので、今後も施策の推進が必要である。		

**(4)迅速、的確な除排雪の推進**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	潤いと思いやりの地域づくり事業<地域福祉・安全事業(除排雪)>	250	695	687	354	【】
合 計		250	695	687	354	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	「潤いと思いやりの地域づくり事業<地域福祉・安全事業(除排雪)>」の申請件数	件	3	5	6	4	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)
							1	貢献していない。
							達成度	施策に対する事務事業の達成度
							2	ある程度進んでいる(50~79%)
							1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(4)迅速、的確な除排雪の推進	担当課	土木課
施策	③ 坂道、交差点、歩道の滑り止めなど、町民の協力を得ながら冬道の安全確保に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	凍結路面对策				凍結路面对策に係る事業費	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	17,972	21,335	23,242	23,034	
		基準年度比(%)	18.7	29.3	28.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	きめ細やかな安全対策のためには、必要な施策である。		4	坂道における砂箱の設置や、町内全ての焼き砂配布を通じて安全確保に努めている。
24年度	4	同上		4	同上
25年度	4	同上		4	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	主に、坂道や交差点の滑り止め対策として町民の協力を得ながら安全確保に努めている。	施策の課題	砂箱の利用について住民への周知が課題である。
総合評価(方向性)	住民の要望を把握しながら、より効率的に施策の推進を図るとともに、地域住民の協力を得られるような方策の検討も必要である。		



施策区分	(5)道路の状況監視	担当課	土木課
施策	① 道路パトロールの強化と町民からの情報の協力を得ながら道路の安全確保に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	道路パトロール委託		道路パトロールに係る委託費			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	672	672	809	857	
		基準年度比(%)	0.0	20.4	27.5	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	道路の安全確保のためのパトロールは欠かせないものであるが、管理延長の増加に伴い、情報収集も含めた体制の構築が必要である。	3	交通量の多い幹線道路は、週1回のパトロールを行うとともに、道路状況が悪い冬期間は委託により行っている。また、町内会や町民からの情報を得ながら、安全確保に努めているが、きめ細やかなパトロールまでには至っていない状況にある。
24年度	5	同上	3	同上
25年度	5	同上	3	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	幹線道路については週に一度のパトロールを実施している。	施策の課題	劣化し続ける道路のパトロールは欠かせないが、そのための体制の構築が課題となっている。
総合評価(方向性)	道路パトロールについては、全ての路線を行うことは難しいことから、住民からの情報を得られるような体制の検討が必要である。		

(5)道路の状況監視 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道路パトロール委託	672	672	809	857	【】
合 計		672	672	809	857	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道路パトロール委託	式	1	1	1	1	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	1	3	1	3	1	3	2	1
								1	
平均	3.00	1.00	3.00	1.00	3.00	1.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

1 計画策定時の「現状と課題」

- 町内には、国、北海道および町が管轄する101条の河川があります。根幹となる大きな河川はほぼ改修を終えています。中小の河川には未整備のものが多く、計画的な整備が必要です。
- 河川の整備では、通常の維持管理における樹木の伐採などでも、町民の意見を聞きながら進めています。今後も町民の意見を取り入れ、自然に配慮した潤いのある環境づくりに努める必要があります。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 生態系の保全に配慮した未改修河川の整備をめざし、関係機関に要請します。
- 水に親しめる川づくりと自然に配慮した治水事業を進めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

河川改修については、1級河川は改修を完了しており、また、河川敷地など空間の有効利用が図られている。

(2)残されている課題等

河川敷地の有効活用などについては、地域の意向や町民の意見を取り入れながら、有効化使用方法について、検討を深めていく体制づくりを推進することが求められる。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.50	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--



5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価		施策 参照 記号
施策						
所管課						
(1)河川改修の推進						
① 未改修河川の整備をめざし、関係機関に要請します。						
土木	5	5	5	施策として目的は果たされており、本施策は十分達成されている。		①-1
② 自然環境や生態系の保全に配慮した工法や親水性のある工法などによる改修を関係機関に要請します。						
土木	5	5	5	施策として目的は果たされており、本施策は十分達成されている。		②-1
③ 町民の河川に対するニーズに沿った河川空間の有効活用ができるよう、改修や利活用の協議に町民参加を進めます。						
土木	4	4	4	15箇所の河川空間の利用が図られている。今後も活用の案件が出てきた場合には、町民と協議しながら、利活用を進める必要がある。		③-1
(2)河川や河川敷地の維持管理						
① 河川の機能を維持するため、必要に応じて河川や河川敷地の維持管理に努めるとともに関係機関に要請します。						
土木	4	4	4	今後も地域住民の要望を把握しながら、必要箇所の維持管理を行いながら、必要に応じて関係機関に要請を行い、施策の推進を図る必要がある。		①-1
全施策の推進状況の平均値	4.5	4.5	4.5			

6 指標の実績									
(1)区分									
番号	目標指標名				説明				
1									
(2)指標の推移									
番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1									
(3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)									
番号	内容								
1									

施策区分	(1)河川改修の推進	担当課	土木課
施策	① 未改修河川の整備をめざし、関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1						
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1						
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	1	国・北海道が所管する一級河川においては河川改修は一定程度完了し、未改修区間はない状況にあり、施策としては目的を達成している。		5	施策は目的を果たしている。
24年度	1	同上		5	同上
25年度	1	同上		5	同上
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	施策の推進の必要はなくなったため、代表的な成果を設定しない。	施策の課題	課題はない。
総合評価(方向性)	施策として目的は果たされており、本施策は十分達成されている。		



施策区分	(1)河川改修の推進	担当課	土木課
施 策	② 自然環境や生態系の保全に配慮した工法や親水性のある工法などによる改修を関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1						
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1						
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必 要 性			推 進 状 況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	1	国・北海道が所管する一級河川においては河川改修は一定程度完了し、未改修区間はない状況にあり、施策としては目的を達成している。		5	施策は目的を果たしている。
24年度	1	同上		5	同上
25年度	1	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	施策の推進の必要はなくなったため、代表的な成果を設定しない。	施 策 の 題	課題はない。
総合評価 (方向性)	施策として目的は果たされており、本施策は十分達成されている。		

(1)河川改修の推進 施策② - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	事務事業なし					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	事務事業なし						【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1							3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
							3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均								

施策区分	(1)河川改修の推進	担当課	土木課
施策	③ 町民の河川に対するニーズに沿った河川空間の有効活用ができるよう、改修や利活用の協議に町民参加を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	河川空間の利用箇所				パークゴルフ場、水辺の学校等	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	16	16	15	15	
	基準年度比(%)		0.0	△ 6.3	△ 6.3	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	2	河川空間の有効活用については、町民との協働で進める必要がある。		4	現在16箇所の河川空間の有効活用を行っており、今後改修や利活用の案件が出た場合には、町民と協働で進める。
24年度	2	同上		4	音幌サッカー場の利用を廃止し、15箇所の河川空間の有効活用を行っている。改修や利活用の案件が出た場合には、町民と協働で進めることとしている。
25年度	2	同上		4	15箇所の河川空間の有効活用を行っており、改修や利活用の案件が出た場合には、町民と協働で進めることとしている。
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成24年度に音幌サッカー場の利用が廃止され、15箇所の河川空間の有効活用がなされている。	施策の課題	新たな河川空間の利用の案件が出てきた場合には、町民参加を図る必要がある。
総合評価 (方向性)	15箇所の河川空間の利用が図られている。今後も活用の案件が出てきた場合には、町民と協議しながら、利活用を進める必要がある。		

(1)河川改修の推進 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
								3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2 貢献している(施策を推進する事務事業)
								1 貢献していない。
平均								

- 達成度
- 3 順調に進んでいる(80~100%)
  - 2 ある程度進んでいる(50~79%)
  - 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)河川や河川敷地の維持管理	担当課	土木課
施策	① 河川の機能を維持するため、必要に応じて河川や河川敷地の維持管理に努めるとともに関係機関に要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	本施策に係る事業費		長流枝内ポン川左5号川(道東道下部BOX内)、フレム川護岸改修、普通河川修繕業務			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	0	6,720	2,604	1,583	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	河川の機能を維持するために必要な施策である。	4	事業をととして維持管理に努めているが、一部未改修河川があり、機能維持を図っていく必要がある。
24年度	3	同上	4	同上
25年度	3	同上	4	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	未改修河川の法崩れの拡大を防ぐなど、工事をととして維持管理に努めている。	施策の課題	施策の課題等はなく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	今後も地域住民の要望を把握しながら、必要箇所の維持管理を行いながら、必要に応じて関係機関に要請を行い、施策の推進を図る必要がある。		



**(2)河川や河川敷地の維持管理**      **施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	長流枝内ポン川左5号川(道東道下部BOX内)		6,720			【】
2	フレムム川護岸改修			2,604		【】
3	普通河川修繕業務				1,583	【】
合 計			6,720	2,604	1,583	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	長流枝内ポン川左5号川(道東道下部BOX内)	式		1			【】
2	フレムム川護岸改修	式			1		【】
3	普通河川修繕業務	式				1	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3					3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
2			3	2					
3					3	2			
平均	3.00	3.00	3.00	2.00	3.00	2.00			

1 計画策定時の「現状と課題」

- 町内には、現在101か所の都市公園と12か所のその他公園などがあります。
- 遊具などの老朽化が進んでいる公園施設もあり、計画的な安全対策への取り組みが必要です。
- 多様化する余暇の過ごし方に対応して、計画的な再整備や高齢者の利用、冬期間における利用を考慮した整備と質の良い緑の確保が求められています。
- 河川空間の緑の保全と有効利用など町民と町との連携を深めながら、緑豊かなまちづくりを進めていくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- くつろぎの場や余暇を過ごす場として、誰もが利用しやすい安全な公園づくりをめざし、整備と維持管理を計画的に進めます。
- 快適な生活環境と安全な都市づくりの一環として、緑地の整備と緑化を促進します。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

「緑の基本計画」、「公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的な公園整備、遊技施設の充実を進めてきた。また、「潤いと思いやりの地域づくり事業」により、町内会組織などを中心に、花壇づくりをはじめとする緑化活動、公園の定期清掃が行われている。

(2)残されている課題等

緑化活動、ライフサイクルコストを意識した効率的な公園維持管理を図るため、町内会をはじめとする地域住民との連携をより充実させ、推進する必要がある。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.43	分野全体の達成状況	B	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分		H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号
施策						
所管課						
(1)公園、緑地の整備、維持管理						
①「緑の基本計画」に基づく公園の適正な配置と誰もが利用しやすい公園づくりに努めます。						
都市計画		5	5	5	町民ニーズや公園の状況、必要性等を把握しながら、公園づくりを進める必要がある。	①-1
★	②「公園施設長寿命化計画」を策定し、既存公園の延命化と再整備を計画的に進めます。					
土木		5	5	5	公園施設長寿命化計画により、平成25年度は遊戯施設20基を撤去し、37基を更新し、施策の推進が図られている。計画的に公園施設の延命化と再整備に努める必要がある。	②-1
③ 一部の公園、緑地では冬期間も利用できるよう、整備を検討します。						
土木		5	4	4	現在、通年供用トイレが5公園稼働しており施策の推進が図られている。今後も地域住民の要望を把握しながら、利便性、利用促進に努める必要がある。	③-1
(2)町民との協働による緑化、公園の維持管理						
① 町民との協働による花壇づくりや緑化を進める活動などを支援します。						
広報広聴		5	5	5	潤いと思いやりの地域づくり事業の活用により、町民との協働による花壇づくりや緑化事業が実施されており、施策の推進が図られている。	①-1
② 町民との協働による公園の維持管理を進める活動などを支援します。						
広報広聴		5	5	5	潤いと思いやりの地域づくり事業を活用し、町民との協働により地域住民の憩いの場である公園の維持管理を行っており、今後も支援を継続し施策を推進する必要がある。	②-1
土木		4	4	4	公園の維持管理には、地域住民のからの公園に関する情報収集や協力が不可欠であるため、理解を得ながら持続可能な公園管理を推進する必要がある。	②-2
(3)多面的な利用に基づいた公園の整備						
① 子どもから高齢者までの健康づくりの場として、健康遊具の設置を検討します。						
土木		4	3	3	地域住民からのニーズを把握するとともに、公園長寿命化計画に基づき、計画的な整備促進に努める必要がある。	①-1
全施策の推進状況の平均値		4.71	4.43	4.43		

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「都市環境や都市基盤の整備について」の「公園や緑地の整備・管理」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	公園の再整備箇所	再整備を実施した公園数(累計)
3		
4		
5		
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	84.4	H20	78.90	77.6	78.5	86	H27	91.3
2	箇所	37	H21	42	46	56	50	H26	112.0
3									
4									
5									
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)公園、緑地の整備、維持管理	担当課	都市計画課
施策	①「緑の基本計画」に基づく公園の適正な配置と誰もが利用しやすい公園づくりに努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	都市公園数				基幹公園数(街区、近隣、地区、総合、運動)	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	86	86	86	87	【H25】西駒公園
		基準年度比(%)	0.0	0.0	1.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	4	誰もが利用しやすく、それぞれが個性ある緑の拠点を つくる必要がある		5	H22、H23に整備予定なし	
24年度	4	同上		5	新規整備なし	
25年度	4	同上		5	西駒公園【駒場地域街区公園】を新たに造成した。 (A=0.43ha)	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない 施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	次年度にも整備計画があり順調に進んでいる。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	町民ニーズや公園の状況、必要性等を把握しながら、公園づくりを進める必要がある。		



施策区分	(1)公園、緑地の整備、維持管理	担当課	土木課
施策	②「公園施設長寿命化計画」を策定し、既存公園の延命化と再整備を計画的に進めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	遊戯施設の総合判定結果				遊戯施設の点検で総合判定結果がC及びDの遊戯施設数(修繕が必要と判定されたもの)	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	個	226	220	200	0	【H25】遊戯施設20基(C,D)を撤去し、37基を更新した。
		基準年度比(%)	△ 2.7	△ 11.5	△ 100.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	都市公園施設における利用者に対する安全性の確保、また公園施設のライフサイクルコスト削減の観点から、公園施設長寿命化計画の策定を行い、予防保全的管理による長寿命化対策を含めた計画的な改築等の推進を目的とする。		5	公園施設長寿命化計画を策定した。
24年度	5	公園施設長寿命化計画により、予防保全的管理による長寿命化対策を含めた計画的な改築等の推進のため、必要な施策である。		5	都市公園(十勝が丘公園)遊戯施設の改築更新など、公園施設の再整備事業を長寿命化計画に基づきを実施した。
25年度	5	公園施設長寿命化計画により、予防保全的管理による長寿命化対策を含めた計画的な改築等の推進のため、必要な施策である。		5	都市公園(6公園)遊戯施設の改築更新など、公園施設の再整備事業を長寿命化計画に基づきを実施した。
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	公園施設長寿命化計画により、予防保全的管理による長寿命化対策を含めた計画的な改築等を実施した。	施策の課題	現施策により推進していくが、公園維持管理の質の向上と各施設の延命化によるライフサイクルコストの削減を継続して行くため、今後地域住民からの公園に関する情報収集や維持管理への住民参加等、町民の理解を得ながら維持管理に取り組まなければならない。
総合評価(方向性)	公園施設長寿命化計画により、平成25年度は遊戯施設20基を撤去し、37基を更新し、施策の推進が図られている。計画的に公園施設の延命化と再整備に努める必要がある。		





施策区分	(1)公園、緑地の整備、維持管理	担当課	土木課
施策	③ 一部の公園、緑地では冬期間も利用できるよう、整備を検討します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	整備箇所数				冬期間の公園利用整備箇所数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1			1			
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	冬の公園利用促進のため、暖房施設の整備や、冬の屋外活動のきっかけづくりとなるような魅力的な公園づくりをする必要がある。		5	平成23年12月から緑陽台近隣公園の通年供用を開始した。
24年度	3	同上		4	地域住民のニーズにより、一部の公園において園路の除雪を行い、冬期間の屋外活動、健康増進の向上に努めた。
25年度	3	同上		4	平成24年度に引き続き、一部の公園の園路の除雪を行った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成23年度に冬期間トイレ利用が出来るよう暖房設備の更新を行い、地域・近隣住民への公園利用促進に繋がっている。	施策の題	公園維持管理の質の向上と各施設の延命化によるライフサイクルコストの削減を継続して行くため、今後地域住民からの公園に関する情報収集や維持管理への住民参加等、町民の理解を得ながら維持管理に取り組まなければならない。
総合評価(方向性)	現在、通年供用トイレが5公園稼働しており施策の推進が図られている。今後も地域住民の要望を把握しながら、利便性、利用促進に努める必要がある。		

(1)公園、緑地の整備、維持管理 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	公園・緑地冬期間利用推進		1,401		【H24・H25】実績なし
合 計			1,401		

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公園再整備	箇所		1			【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3					3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
							達成度	
							3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	3.00	3.00						

施策区分	(2)町民との協働による緑化、公園の維持管理	担当課	広報広聴課
施策	① 町民との協働による花壇づくりや緑化を進める活動などを支援します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	「潤いと思いやりの地域づくり事業(地域緑化事業)」の申請件数		町内会組織などを中心とする「潤いと思いやりの地域づくり事業」における地域緑化事業の申請件数(年間)			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	40	42	45	44	
	基準年度比(%)		5.0	12.5	10.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	町内会が自主的に公共的空間への花きの植栽、植樹を行い、町民との協働による緑豊かなまちづくりを進めており、継続的な支援が必要である。	5	事業としては多くの町内会に浸透し、協働による花壇づくりや緑化事業を推進につながっている。
24年度	4	同上	5	多くの町内会に浸透し、協働による花壇づくりや緑化事業が推進されて、緑豊かなまちの創出につながっている。
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	申請件数は横ばいで安定しており、町民との協働による花壇づくりや緑化を進める活動を推進することで、緑豊かなまちづくりを進めており、継続的な支援が広がっている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	潤いと思いやりの地域づくり事業の活用により、町民との協働による花壇づくりや緑化事業が実施されており、施策の推進が図られている。		



施策区分	(2)町民との協働による緑化、公園の維持管理	担当課	広報広聴課
施策	② 町民との協働による公園の維持管理を進める活動などを支援します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	「潤いと思いやりの地域づくり事業<地域環境美化事業(公園の定期清掃)>」の申請件数		町内会組織などを中心とする「潤いと思いやりの地域づくり事業」における地域環境美化事業(公園の定期清掃)の申請件数(年間)			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	36	40	40	39	
	基準年度比(%)		11.1	11.1	8.3	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	町内会が自主的に街区公園などの定期的清掃を行い、町民との協働による公園の維持管理を進めており、今後も支援が必要である。	5	事業としては多くの町内会に浸透しており、町民との協働による公園の維持管理を支援している。
24年度	4	同上	5	多くの町内会に浸透しており、協働による公園の維持管理を支援できている。
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	申請件数は横ばいで安定しており、町民との協働による公園の維持管理を進める活動を推進することで、公園の維持管理を進めており、継続的な支援が広がっている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	潤いと思いやりの地域づくり事業を活用し、町民との協働により地域住民の憩いの場である公園の維持管理を行っており、今後も支援を継続し施策を推進する必要がある。		

**(2)町民との協働による緑化、公園の維持管理**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	潤いと思いやりの地域づくり事業<地域環境美化事業(公園の定期清掃)>	720	800	800	780	【】
合 計		720	800	800	780	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	「潤いと思いやりの地域づくり事業<地域環境美化事業(公園の定期清掃)>」の申請件数	件	36	40	40	39	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3	3	2	1
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(2)町民との協働による緑化、公園の維持管理	担当課	土木課
施策	② 町民との協働による公園の維持管理を進める活動などを支援します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	町内会等の管理公園数				町内会等が管理する公園数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	17	17	17	17	街区公園11箇所、総合公園1箇所、緑地4箇所、広場1箇所
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	地域における憩いの場である公園等の管理を、行政区・老人クラブ等の地域住民による団体が実施することは、住民意識の向上・地域のコミュニケーションの広がり、協働によるまちづくりの促進に大きく寄与するものとすることから、必要な施策である。		4	平成22年度実績と比較して、管理公園数は変わらず管理状況も定着しており、町民との協働による公園の維持管理を行っている。
24年度	3	同上		4	同上
25年度	3	同上		4	同上
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成22年度より公園数においては横ばい傾向となっている。	施策の題	公園を地域住民自らが管理することにより、管理状況も定着した一方で、高齢化が進み担い手の育成及び町の支援を検討しなければならない。
総合評価(方向性)	公園の維持管理には、地域住民のからの公園に関する情報収集や協力が必要不可欠であるため、理解を得ながら持続可能な公園管理を推進する必要がある。		





施策区分	(3)多面的な利用に基づいた公園の整備	担当課	土木課
施策	① 子どもから高齢者までの健康づくりの場として、健康遊具の設置を検討します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	公園再整備数		公園施設更新箇所数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	2	3	5	10	
	基準年度比(%)		50.0	150.0	400.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	公園施設の機能保全・安全性の確保等、総合的な安全対策を計画的に実施し、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる取り組みが必要である。	4	公園施設長寿命化計画を策定した。
24年度	5	同上	3	水飲台1、水洗トイレ3新設 遊具2基更新(1公園)
25年度	5	同上	3	水飲台3、水洗トイレ1新設 遊具37基更新(6公園)
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	公園施設長寿命化計画により、予防保全的管理による長寿命化対策を含めた計画的な整備を行っている。	施策の課題	公園維持管理の質の向上と各施設の延命化によるライフサイクルコストの削減を継続して行くため、今後地域住民からの公園に関する情報収集や維持管理への住民参加等、町民の理解を得ながら維持管理に取り組まなければならない。
総合評価(方向性)	地域住民からのニーズを把握するとともに、公園長寿命化計画に基づき、計画的な整備促進に努める必要がある。		

**(3)多面的な利用に基づいた公園の整備**      **施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公園再整備	2,310	4,015	37,611	69,090	【H25】十勝が丘公園ほか5公園遊戯施設改築更新、水洗トイレ1公園、水飲台3公
2	公園施設長寿命化計画の策定	3,255	7,560			【H24・H25】実績なし
合 計		5,565	11,575	37,611	69,090	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公園再整備	箇所	2	3	5	10	【】
2	公園施設長寿命化計画の策定	箇所		96			【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	2	2	2	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
2							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	3.00			

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町では、平成21年度末現在984戸の町営住宅を管理しています。これまで「公共賃貸住宅再生マスタープラン」により公営住宅の建て替えを進めてきましたが、今後は、「公営住宅長寿命化計画」に基づき、公営住宅の建て替え、改修などを進めていくことが必要です。
- 近年の住宅へのニーズとして、高齢者や障がい者に配慮した住環境づくりや、省エネ型の住宅づくりが求められています。
- 宅地については、少子高齢化による人口減少により、今後は住居系の新規市街化区域の編入が困難となり、従来の形態での大規模な宅地開発は実施できなくなる可能性があります。また、土地区画整理事業補助についても、新規市街地開発は採択されない状況です。
- 新規市街化区域内に近年開発された宅地については、土地取引や住宅の建設が概ね順調に推移しています。今後も既存市街地内にある未利用地に着目し、帯広圏内の宅地ニーズに対応した開発を促進することが必要であり、民間開発行為への技術的な助言だけでなく、民間が保有する空地情報も把握し、積極的に活用することが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 「住宅マスタープラン」「公営住宅長寿命化計画」に基づき、多様なニーズに対応する良質な住まいづくりや、既存公営住宅の有効活用により公営住宅の整備を進めます。
- 未利用のままである市街化区域内の土地について、適切な利用を促し区域の用途に応じた土地利用を進めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

平成24年度から空き地・空家バンク制度を導入し、未利用住宅、未利用地の利用促進に向け、土地住宅情報のネットワーク化を図っている。また、民間による高齢者向け優良賃貸住宅の整備が充実された。公営住宅については、「公営住宅長寿命化計画」に基づき、計画的な維持管理体制を構築し、民間住宅の買い取りなどによる効率的な運用を図っているが、公営住宅を保管する民間住宅の活用については、実績として残せていない。

(2)残されている課題等

定住人口の促進などを進めるため、空き地・空家バンクは、制度の周知、登録件数の増加を図ることが課題となっている。各種計画は、中間見直しなどを通じて更なる充実を図る。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	3.82	分野全体の達成状況	C	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号	施 策 号
施策						
所管課						
<b>(1)民間住宅の整備推進</b>						
① 町による町内土地住宅情報のネットワーク化を進めます。						
都市計画	2	2	5	定住人口を増加させるためには、市街地における未利用地等の利用促進が不可欠であり、周知方法を検討しながら、更なる推進が必要である。	①-1	
建築住宅	2	3	4	定住人口を増加させるためには、市街地における未利用地等の利用促進が不可欠であり、周知方法を検討しながら、更なる推進が必要である。	①-2	
② 高齢者や障がい者などに配慮した住宅を供給するため、民間活力による整備を促進します。						
建築住宅	4	4	4	行政だけでは補いきれない整備等を、民間事業者と連携しながら進めている。今後は登録件数を伸ばすよう施策を推進していく必要がある。	②-1	
③ 地球温暖化対策のため、省エネ型住宅による建設を促進します。						
<b>(2)公営住宅の整備、維持管理</b>						
★ ① 「住宅マスタープラン」「公営住宅長寿命化計画」に基づき、公営住宅の適正な整備と維持管理に努めます。						
建築住宅	5	5	5	町民の生活環境を向上させるため、引き続き計画に基づいた適正な公営住宅の整備、管理に努めていく必要がある。また、平成27年度は中間年となることから、計画の見直しについても進めていく必要がある。	①-1	
② 民間活力を活用した買取り・借上げ公営住宅制度の活用をはかります。						
建築住宅	3	3	3	民間活力の導入については、公営住宅等長寿命化計画の中間見直しにおいて十分に検討し、施策を推進していく必要がある。	②-1	
③ 公営住宅の入居待機者を解消するため、公営住宅を補完する住宅として民間賃貸住宅の活用をはかります。						
建築住宅	1	2	2	公営住宅の入居待機者を解消するために、民間賃貸住宅の家賃補助の平成26年度から実施に向けて、準備を進めている。制度の周知等を滞りなく行い、制度の活用による施策の推進を図る必要がある。	③-1	
<b>(3)ユニバーサルデザイン住宅の普及</b>						
① 子どもからお年寄まですべての人にやさしく、安全で使いやすい快適なユニバーサルデザイン住宅の普及啓発に努めます。						
建築住宅	5	5	5	やさしい住宅改修費補助事業を通して施策の推進が図られている。今後も制度の周知について検討しながら、ユニバーサルデザイン住宅の普及啓発を図る。	①-1	
② 公営住宅の建て替えにおいて、ユニバーサルデザインに配慮した住宅づくりに努めます。						
建築住宅	5	5	5	今後建替えが行われる公営住宅については、誰にでも使いやすいユニバーサルデザインを導入した住宅とする計画となっている。また、可能な範囲で財政負担が少なくなるよう、整備手法についても検討していく必要がある。	②-1	
<b>(4)宅地の開発、環境の向上</b>						
① 既存市街地内の未利用について、住宅地としての利用を促進します。						
都市計画	2	2	4	定住人口を確保するためには、市街地内における未利用地の利用促進が不可欠であることから、空き地バンクの周知を検討しながら、施策を推進していく必要がある。	①-1	

② 町民ニーズに沿った居住環境づくりを推進するため、地区計画制度などによる住民協定の導入を促進します。

都市計画	5	5	5	町民ニーズに沿った居住環境づくりを進めるため、地区計画制度などを活用して、居住環境づくりを推進する必要がある。	②-1
------	---	---	---	---	-----

全施策の推進状況の平均値	3.09	3.27	3.82
--------------	------	------	------

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「都市環境や都市基盤の整備について」の「公営住宅環境の整備」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	老朽化した公営住宅などの割合	耐用年限の2分の1を超過し老朽化した簡易耐火構造の平家建て、2階建て公営住宅等が、公営住宅等総戸数に占める割合
3	民間賃貸住宅の活用戶数	公営住宅の入居待機者を解消するため、公営住宅を補完する民間賃貸住宅の活用戶数
4	宅地造成地区の宅地利用率	近年に宅地造成された団地の宅地利用率(住宅が建築されている区画数/全住宅区画数)
5		
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	80.3	H20	80.00	79.1	82.1	82	H27	100.1
2	%	48.5	H21	48.6	48.8	45.8	42.1	H26	108.8
3	戸	0	0	0	0	0	50	H26	0.0
4	%	77	H21	88	89.3	92.4	87.6	H26	105.5
5									
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	【H23】最新航空写真を基に全区域について残区画の再精査を実施
5	
6	

施策区分	(1)民間住宅の整備推進	担当課	都市計画課
施策	① 町による町内土地住宅情報のネットワーク化を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	土地情報の登録件数		空き地バンクへ登録された情報の件数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	0	0	0	29	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町内の未利用地を有効利用するために空き地情報を広く周知することは有効な施策である。	2	空き地バンクの実施に向け検討を開始した。
24年度	3	同上	2	平成24年度末に運用を開始し、ホームページや広報紙で周知を図るとともに協力業者に対して登録の促進について要請した。
25年度	3	同上	5	空き地バンクは24年度末からの運用開始であり、協力業者に対する登録要請の他、手続簡略化を図る等、更なる事業推進を行っている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	実質的には、平成25年度から情報を登録、発信した。	施策の題	制度の目的である「定住人口の促進と地域の活性化」の実現や、登録数・利用数増のため、更なる周知活動が必要。
総合評価(方向性)	定住人口を増加させるためには、市街地における未利用地等の利用促進が不可欠であり、周知方法を検討しながら、更なる推進が必要である。		

**(1)民間住宅の整備推進**      **施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	町内土地住宅情報のネットワーク化				【H25】実質的な運用開始
合 計					

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額			成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	土地情報の登録件数	件			29	【H24】25年3月から空き家バンク運用開始 【H25】実質的な運用開始

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	1	2	1	2	2	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。		
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
									3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	1.00	2.00	1.00	2.00	2.00			



施策区分	(1)民間住宅の整備推進	担当課	建築住宅課
施策	① 町による町内土地住宅情報のネットワーク化を進めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	空き地・空き家バンク制度		住宅情報を町のホームページに登録した件数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	0	0	0	15	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	新たな市街化区域編入が困難な状況から、市街化区域内の未利用地について情報提供することにより計画的なまちづくりを図る。また、利用可能な空き家についても情報提供することにより、既成市街地の活性化を図る。	2	情報収集により制度の検討を開始した。
24年度	3	同上	3	平成24年度末に運用を開始し、ホームページやや広報紙で周知を図るとともに協力業者に対して登録の促進について要請した。
25年度	3	同上	4	協力業者に対して登録の要請を2回実施したほか、運用を改正し手続きの簡略化を図った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	実質的な初年度としては、ある程度の実績、成果があったと評価する。	施策の課題	制度の目的である「定住人口の促進と地域の活性化」の実現や、登録数・利用数増のため、更なる周知活動が必要。
総合評価(方向性)	定住人口を増加させるためには、市街地における未利用地等の利用促進が不可欠であり、周知方法を検討しながら、更なる推進が必要である。		



(1)民間住宅の整備推進 施策① - 2

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	町内土地住宅情報のネットワーク化				【～H23】事業実績なし【24】要綱策定
合 計					

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	空き地・空き家バンク制度	件				15	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1					2	2		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
								施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80～100%) 2 ある程度進んでいる(50～79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均					2.00	2.00		

施策区分	(1)民間住宅の整備推進	担当課	建築住宅課
施策	② 高齢者や障がい者などに配慮した住宅を供給するため、民間活力による整備を促進します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	高齢者向け優良賃貸住宅及びサービス付き高齢者向け住宅の戸数				高齢者向け優良賃貸住宅及びサービス付き高齢者向け住宅の戸数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	戸	12	35	35	35	
		基準年度比(%)	191.7	191.7	191.7	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	少子高齢化により、高齢者や障がい者に配慮した住宅が求められることから、民間活力による整備を促進する必要がある。		4	高齢者向け優良賃貸住宅が12戸、サービス付き高齢者向け住宅23戸が整備されている。
24年度	4	同上		4	同上
25年度	4	同上		4	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	高齢者向け優良賃貸住宅(福住苑)が平成13年に、サービス付き高齢者向け住宅(ピアしらかば)が平成23年に登録された。	施策の題	現施策の推進が必要であるが、登録件数が伸びていない状況にある。
総合評価(方向性)	行政だけでは補いきれない整備等を、民間事業者と連携しながら進めている。今後は登録件数を伸ばすよう施策を推進していく必要がある。		



施策区分	(2)公営住宅の整備、維持管理	担当課	建築住宅課
施策	①「住宅マスタープラン」「公営住宅長寿命化計画」に基づき、公営住宅の適正な整備と維持管理に努めます。		重点施策

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	老朽化した公営住宅などの割合		耐用年数を経過し老朽化した公営住宅等が、公営住宅総戸数に占める割合			
数値2	公営住宅建替事業費・修繕費		公営住宅の建替に要する経費及び修繕費等公営住宅の維持管理に要する経費			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	40.8	41.7	41.2	36.6	H25末管理戸数975戸、耐用年数経過357戸、耐用年数の1/2経過447戸
	基準年度比(%)		2.2	1.0	△ 10.3	
数値2	千円	449,968	139,634	547,291	242,992	住宅管理費、住宅建設費の決算額の合計(臨時職賃金を除く)
	基準年度比(%)		△ 69.0	21.6	△ 46.0	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	平成23年度末現在で、公営住宅管理戸数1,005戸のうち、既に419戸が耐用年数を全経過しており、今後公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理する必要がある。(1/2経過489戸)	5	公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理が行われている。
24年度	5	平成24年度末現在で、公営住宅管理戸数1,037戸のうち、既に427戸が耐用年数を全経過しており、今後公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理する必要がある。(1/2経過507戸)	5	公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理が行われており、平成24年度は、鈴蘭団地建替事業、梢団地建替事業を行った。
25年度	5	平成25年度末現在で、公営住宅管理戸数975戸のうち、既に357戸が耐用年数を全経過しており、今後公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理する必要がある。(1/2経過447戸)	5	公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理が行われており、平成25年度は、梢団地建替事業を行った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	公営住宅等長寿命化計画に基づき適正に整備、維持管理が行われており、平成25年度は鈴蘭団地建替(解体)、梢団地建替を行ったことで、老朽化した公営住宅などの割合が4ポイント下がった。	施策の題	現施策により推進するが、平成27年度は公営住宅長寿命化計画期間の中間年となり見直しの必要性がある。
総合評価(方向性)	町民の生活環境を向上させるため、引き続き計画に基づいた適正な公営住宅の整備、管理に努めていく必要がある。また、平成27年度は中間年となることから、計画の見直しについても進めていく必要がある。		



施策区分	(2)公営住宅の整備、維持管理	担当課	建築住宅課
施策	③ 公営住宅の入居待機者を解消するため、公営住宅を補完する住宅として民間賃貸住宅の活用をはかります。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	買取り、借上げ公営住宅の戸数				買取り、借上げ公営住宅の戸数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	戸	24	24	24	24	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	公営住宅の整備手法に民間活力を導入し、公営住宅整備に係る財政負担の軽減を図るため、必要な施策である。		3	平成13年度から平成14年度に24戸を買取り、計24戸となっている。
24年度	4	同上		3	同上
25年度	4	同上		3	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成13、14年度に六新団地24戸を買取り現在に至っている。	施策の課題	公営住宅建替え計画において、民間活力の導入について調査検討する必要がある。
総合評価(方向性)	民間活力の導入については、公営住宅等長寿命化計画の中間見直しにおいて十分に検討し、施策を推進していく必要がある。		

**(2)公営住宅の整備、維持管理**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公営住宅の買取り・借上げ	534,881				【H13～H14】24戸買取りしたが、以後の実績なし
合 計		534,881				

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	買取り・借上げ戸数	戸	24				【H13～H14】24戸買取りしたが、以後の実績なし

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	2	3	2	3	2	3	2	1
平均	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80～100%)
2	ある程度進んでいる(50～79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)公営住宅の整備、維持管理	担当課	建築住宅課
施策	③ 公営住宅の入居待機者を解消するため、公営住宅を補完する住宅として民間賃貸住宅の活用をはかります。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	民間賃貸住宅の活用戸数		公営住宅の入居待機者を解消するため、民間賃貸住宅を活用した戸数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	戸	0	0	0	0	【～H25】民間賃貸住宅の活用実績なし
		基準年度比(%)				
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	公営住宅を補完する住宅として、民間賃貸住宅を活用し、家賃の一部を補助することにより、公営住宅入居待機者の解消を図るため、必要な施策である。	1	未着手。
24年度	4	同上	2	民間賃貸住宅の現状調査、制度研究を行った。
25年度	4	同上	2	平成26年度からの開始に向けて、要綱等を整備した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成26年度からの事業実施に向けて検討を行っている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策を推進する。
総合評価 (方向性)	公営住宅の入居待機者を解消するために、民間賃貸住宅の家賃補助の平成26年度から実施に向けて、準備を進めている。制度の周知等を滞りなく行い、制度の活用による施策の推進を図る必要がある。		



**(2)公営住宅の整備、維持管理**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	民間賃貸住宅家賃補助事業					【H25】要綱を整備
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	補助した戸数	戸					【～H25】事業実績なし

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	1	1	1	1	1	2	3	2	1
平均	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80～100%)
2	ある程度進んでいる(50～79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)ユニバーサルデザイン住宅の普及	担当課	建築住宅課
施策	① 子どもからお年寄まですべての人にやさしく、安全で使いやすい快適なユニバーサルデザイン住宅の普及啓発に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	既存住宅のユニバーサルデザイン改修				やさしい住宅改修費補助事業の件数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	0	14	29	18	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	既存住宅をユニバーサルデザイン改修するために費用の一部を補助することは有効な施策である		5	平成23年度から制度を開始した。広報紙やホームページ掲載により制度の周知に努めている。	
24年度	3	同上		5	制度の周知が一定程度されたことにより申請件数も増加している。	
25年度	3	同上		5	申請件数も安定してきている。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成23年度の制度開始から申請件数は年間20件程度となっている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策による推進を図る。
総合評価(方向性)	やさしい住宅改修費補助事業を通して施策の推進が図られている。今後も制度の周知について検討しながら、ユニバーサルデザイン住宅の普及啓発を図る。		

(3)ユニバーサルデザイン住宅の普及 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	やさしい住宅改修費補助事業		2,534	4,707	3,104	【】
合 計			2,534	4,707	3,104	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額			成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)	
			22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	やさしい住宅改修費補助件数	件		14	29	18	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)ユニバーサルデザイン住宅の普及	担当課	建築住宅課
施策	② 公営住宅の建て替えにおいて、ユニバーサルデザインに配慮した住宅づくりに努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	ユニバーサルデザイン住宅の整備戸数				ユニバーサルデザイン住宅の整備戸数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	戸	116	116	148	156	桜が丘団地以降に整備したユニバーサルデザインを導入した公営住宅の戸数累計
	基準年度比(%)		0.0	27.6	34.5	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、多様な人々が利用できるユニバーサルデザイン住宅を整備する。		5	これから整備する公営住宅は、全ての住戸においてユニバーサルデザインを採用することとした。
24年度	3	同上		5	新たに32戸のユニバーサルデザインを導入した公営住宅を整備した。
25年度	3	同上		5	新たに8戸のユニバーサルデザインを導入した公営住宅を整備した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	ユニバーサルデザイン住宅の整備戸数は、平成25年度で156戸となっている。公営住宅等長寿命化計画に基づき整備している。	施策の	ユニバーサルデザインを導入しながらも建設コスト縮減に努める必要がある。
総合評価(方向性)	今後建替えが行われる公営住宅については、誰にでも使いやすいユニバーサルデザインを導入した住宅とする計画となっている。また、可能な範囲で財政負担が少なくなるよう、整備手法についても検討していく必要がある。		

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公営住宅のユニバーサルデザイン整備	386,962	50,740	481,584	181,334	【】
合 計		386,962	50,740	481,584	181,334	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	ユニバーサルデザイン公営住宅の整備戸数	戸	32		32	8	【～20】桜が丘84戸

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

- 施策に対する事務事業の貢献度
- 3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
  - 2 貢献している(施策を推進する事務事業)
  - 1 貢献していない。
- 施策に対する事務事業の達成度
- 3 順調に進んでいる(80～100%)
  - 2 ある程度進んでいる(50～79%)
  - 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(4)宅地の開発、環境の向上	担当課	都市計画課
施策	① 既存市街地内の未利用について、住宅地としての利用を促進します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	民間宅地整備面積		市街化区域内の民間による住居系開発行為面積			
数値2	土地情報の登録件数		空き地バンクへ登録された情報の件数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	ha	0.0	0.2	0.9	4.2	
	基準年度比(%)					
数値2	件	0	0	0	29	【H24】25年3月から運用開始のため実績なし
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	町内の未利用地を適切に活用させるためには、開発に関する指導や町HPを通じての未利用地情報周知は必要不可欠である。		2	民間開発は町が主導できるものではなく受動的な実績である。また、空き地バンクは実施に向けて計画中である。	
24年度	3	同上		2	民間開発については1ヘクタールの実績があった。また、空き地バンクは24年度末より運用を開始した。	
25年度	3	同上		4	民間開発については、4ヘクタールの実績があった。また、空き地バンクは24年度末からの運用開始であり、協力業者に対する登録要請の他、手続簡略化を図るなど、更なる事業推進を行っているところである。	
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	民間による住居系の開発及び空き地バンク制度により、市街地の未利用地の利用促進に努めている。	施策の課題	大規模民間開発は、経済動向等の影響が大で、計画や成果が安定しない。空き地バンクは、制度の目的である「定住人口の促進と地域の活性化」の実現させるための空き地取引活性化や、登録数・利用数増のため、更なる周知活動が必要である。
総合評価(方向性)	定住人口を確保するためには、市街地内における未利用地の利用促進が不可欠であることから、空き地バンクの周知を検討しながら、施策を推進していく必要がある。		

(4) 宅地の開発、環境の向上 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	既存市街化区域内の民間開発行為による宅地整備推進				【】
2	既存市街化区域内の宅地情報ネットワークの整備				【H25】実質的な運用開始
合 計					

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	住居系開発行為面積	ha			1	4	【H24】分譲用宅地開発行為：1件
2	情報登録件数	件				29	【H24】25年3月から空き家バンク運用開始

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	1	3	3	2	2	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度	
2			2	1	2	3		3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	1.00	2.50	2.00	2.00	2.50			

施策区分	(4)宅地の開発、環境の向上	担当課	都市計画課
施策	② 町民ニーズに沿った居住環境づくりを推進するため、地区計画制度などによる住民協定の導入を促進します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	地区数		景観等について、町民のニーズに沿った、まちづくりビジョンによる建築等が進められている地区数が確認できる。			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	11	11	11	11	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	住民の生活に身近な地区を単位として、建築物の建て方など地区の特性に応じてきめ細かなルールを定めるまちづくりの計画として必要な施策である。	5	住居系などでの市街化区域編入にあわせて、都市計画決定を行っている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年度における地区数は11と変わらないが、既存地区においては町民ニーズに沿った居住環境づくりの推進が図られている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	町民ニーズに沿った居住環境づくりを進めるため、地区計画制度などを活用して、居住環境づくりを推進する必要がある。		



**(4) 宅地の開発、環境の向上**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	既存市街地における地区計画の決定				【】
合 計					

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	地区計画の決定	箇所	11	11	11	11	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町の地籍調査は、調査対象面積に対して約92%終了していますが、市街地(市街化区域10.27km<sup>2</sup>)では、平成21年度末現在で約44%の実施率にとどまっています。市街地の地図混乱地区については、調査を早期に着手することが必要です。
- 地図情報システム化については、平成21年度末現在で市街地2.11km<sup>2</sup>の地籍情報管理システム化が完了しています。数値情報化した地図・地籍情報を、統合型地図情報システム(GIS)に有効活用していくことにより、地籍調査の事業効果をさらに高めていくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 土地の有効活用や土地取引の円滑化、土地政策の基礎資料としての利活用のため、調査の推進に努めます。
- 地図・地籍情報のシステム化を継続し、地籍調査の成果をより有効利用するために、統合型地図情報システムとの連携をはかります。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

計画に基づき、共栄高台地区、共栄むつみ地区の地籍調査を行い、これを地図情報システムで管理している。

(2)残されている課題等

計画的に調査し、有用な情報としての保持を推進する必要がある。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	5.00	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50~5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00~4.49) C 計画を下回っている(3.00~3.99) D 大幅に計画を下回っている(0~2.99)
------------	------	-----------	---	--

**5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策**

施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記 号
施策					
所管課					
(1)地籍調査の推進					
① 特に市街部の調査を進めることをめざし、地籍調査事業の推進に努めます。					
土木	5	5	5	市街部の地籍調査を進めるため、引き続き施策の推進を図る必要がある。	①-1
(2)調査結果の活用					
① 地籍調査の結果を有効活用するため、地図情報のシステム化を進めます。					
土木	5	5	5	引き続き地籍調査の結果を地図情報システムで管理し、施策の推進を図る必要がある。	①-1
全施策の推進状況の平均値	5	5	5		

**6 指標の実績**

(1)区分										
番号	目標指標名						説明			
1	地籍調査実施面積						地籍調査を行った面積			
2	地籍調査実施実施率						地籍調査を行った面積と調査対象面積に対する実施した割合			
(2)指標の推移										
番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%	
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度		
1	km <sup>2</sup>	430.8	H21	431.14	431.29	431.29	431.56	H26	99.9	
2	km <sup>2</sup>	92.52	H21	92.6	92.61	92.61	92.69	H26	99.9	
(3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)										
番号	内容									
1	【H22】木野北地区の調査完了(0.38km <sup>2</sup> )									
2	【H22】木野北地区の調査完了(0.38km <sup>2</sup> )									

施策区分	(1)地籍調査の推進	担当課	土木課
施策	① 特に市街部の調査を進めることをめざし、地籍調査事業の推進に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	市街地における地籍調査を行った面積		市街地(市街化区域面積10.83km <sup>2</sup> )における地籍調査を行った面積			
数値2	市街地における調査対象面積に対する実施した割合		市街地(市街化区域面積10.83km <sup>2</sup> )における調査対象面積に対する実施した割合			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	km <sup>2</sup>	5.5	5.5	5.6	5.6	【H24】共栄高台地区の調査完了(0.15km <sup>2</sup> )
	基準年度比(%)		0.0	2.7	2.7	
数値2	%	51	51	52	52	【H24】共栄高台地区の調査完了(0.15km <sup>2</sup> )
	基準年度比(%)		0.0	2.7	2.7	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	土地の有効利用や土地取引の円滑化、土地施策の基礎資料としての利活用を行うため、必要な施策である		5	計画どおり、「共栄高台地区」の地籍調査を行った。
24年度	4	同上		5	計画どおり、「共栄高台地区、共栄むつみ地区」の地籍調査を行った。
25年度	4	同上		5	計画どおり、「共栄むつみ地区」の地籍調査を行った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	市街地における地籍調査を行った面積と調査面積に対する実施した割合は、平成24年度に「共栄高台地区」が完了したこともあり増加した。	施策の題	基準年度から当該年度までの間の実施面積が小さいため、増加は緩やかである。
総合評価(方向性)	市街部の地籍調査を進めるため、引き続き施策の推進を図る必要がある。		

(1)地籍調査の推進 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	地籍調査事業	8,230	13,489	12,784	14,818	【】
合 計		8,230	13,489	12,784	14,818	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	調査完了面積	㎡	380,000		150,000		【H24】共栄高台地区の調査完了(0.15 km <sup>2</sup> )

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

達成度	施策に対する事務事業の達成度	
	3	2
	3	順調に進んでいる(80~100%)
	2	ある程度進んでいる(50~79%)
	1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)調査結果の活用	担当課	土木課
施策	① 地籍調査の結果を有効活用するため、地図情報のシステム化を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	地図情報システムで管理している面積		地籍情報を地図情報システムで管理している面積			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	km2	2.5	2.5	2.5	2.6	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	6.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	地籍調査が完了した地区を地図情報システムで管理することによって、土地の基礎資料としての利活用が図られるため、必要な施策である。	5	毎年度の土地異動情報の管理を行っている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	市街地における地籍調査を行った面積と調査面積に対する実施した割合は、平成24年度に「共栄高台地区」が完了したこともあり増加した。	施策の題	基準年度から当該年度までの間の実施面積が小さいため、増加は緩やかである。
総合評価(方向性)	引き続き地籍調査の結果を地図情報システムで管理し、施策の推進を図る必要がある。		

(2)調査結果の活用 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	地籍成果のシステム化	2,741	588	567	672	【】
合 計		2,741	588	567	672	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	地図情報で管理している面積	km2	2	2	2	3	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町の水道は、河川からの取水と深井戸を水源としているほか、十勝中部広域水道企業団から受水し、安全な水をより安定的に供給することに努めています。
- 上水道区域では、第3次拡張事業により整備を進めており、平成21年度末現在の給水人口は37,657人で給水区域内の普及率は90.3%、計画人口に対する達成率は88.6%です。農村部では、営農用水事業および簡易水道事業により整備を進めていますが、市街地に比べて整備が遅れています。今後も、水道未普及地域の解消に努めるとともに、水道施設の老朽化による改修や更新、耐震化が必要です。また、自然災害など、緊急時の危機管理体制や機能の強化が必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 安全で良質な水を安定して供給します。
- 水道未普及地域の解消をはかります。
- 老朽施設の更新事業を計画的に進めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

安定した水質・水量を確保するため、新井戸の掘削を行った。給水面においては、水道3次拡張計画及び簡易水道認可計画に基づき施設整備を行い、未普及地域の解消を進めてきた。老朽化した施設の更新と漏水対策などの維持管理により、有収率の上昇が図られている。また、緊急時の飲料水確保については、計画していた緊急貯水槽の整備を完了した。

(2)残されている課題等

安定した取水管理、給水施設の維持管理徹底を図る必要がある。また、農村部の人口が減少傾向にある中で、給水人口の推移を注視しながら、安定的な供給を図るため、効率的かつ経済的な施設整備を進めていく。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.80	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--



**5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策**

施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記 号							
<table border="1"> <tr> <td>施策</td> <td rowspan="2">H23</td> <td rowspan="2">H24</td> <td rowspan="2">H25</td> <td rowspan="2">総合評価</td> <td rowspan="2">施策 参照 記 号</td> </tr> <tr> <td>所管課</td> </tr> </table>	施策	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記 号	所管課					
施策	H23						H24	H25	総合評価	施策 参照 記 号		
所管課												
<b>(1)水源の確保</b>												
① 水源の適切な維持管理、更新を進めます。												
上下水道	5	5	5	新井戸について試験的な取水を行いながら、安定取水に取り組んでおり、施策の推進が図られている。今後も、水質と取水量に注意しながら、安定取水の管理を行っていく必要がある。	①-1							
<b>(2)水道施設の整備、維持管理</b>												
① 水道未普及地域の整備を進めます。												
上下水道	5	5	4	施設整備計画に基づき、未普及地域の解消が進められている。将来的な給水人口の推移等も把握しながら、効率的かつ経済的な施設整備を実施していく必要がある。	①-1							
② 水道施設の長寿命化のため、計画的な更新と耐震化を進めます。												
上下水道	5	5	5	施設更新計画に基づき、耐震化も含め安全で衛生的な生活環境の維持に向け、施策の推進が必要である。	②-1							
③ 災害時の応急飲料水を確保するため、緊急貯水槽の整備を進めます。												
上下水道	5	5	5	緊急貯水槽については、計画どおりに施設整備を実施した。今後は、緊急時に備えて点検等も実施する必要がある。	③-1							
★ ④ 農村部の水の確保に努めます。												
上下水道	5	5	5	国の補正予算の活用等により、計画どおりの事業推進が図られている。事業実施は国の補助枠等に大きく影響されるが、農村部における水道未普及地区の解消のため、安全な水を供給する区域の拡大に努める必要がある。	④-1							
全施策の推進状況の平均値	5	5	4.8									

**6 指標の実績**

<b>(1)区分</b>										
番号	目標指標名				説明					
1	水道の普及率				全町の水道普及率					
2	基幹管路の耐震化率				基幹管路に占める耐震管および耐震適合性のある管の使用割合					
<b>(2)指標の推移</b>										
番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%	
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度		
1	%	86.2	H21	87.6	87.3	89.4	92.3	H26	96.9	
2	%	48.5	H21	50.9	52.2	52.6	55	H26	95.6	
<b>(3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)</b>										
番号	内容									
1										
2										

施策区分	(1)水源の確保	担当課	上下水道課
施策	① 水源の適切な維持管理、更新を進めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	深井戸取水量		水源である深井戸の日当たり平均取水量(年間総取水量÷年日数)			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m3/日	1,555	959	2,174	3,102	【23】H23に新井戸を掘削し、3,300m3/日能力の井戸を整備
	基準年度比(%)		△ 38.3	39.8	99.5	【24】浄水施設への接続工事を実施し、取水する
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	安定した水質・水量を確保するため必要な施策である。	5	平成23年度に掘削した新井戸を平成24年度に浄水施設に接続する計画となっている。
24年度	3	同上	5	平成23年度に掘削した新井戸を平成24年度に浄水施設に接続、9月に供用開始し、安定した取水量を確保した。
25年度	3	同上	5	平成24年度の接続以降、安定した取水量を確保している。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	新井戸について24~25年にかけて試験的に3,000m3/日以上 of 取水を試み安定した水質水量を確保できた 今後については認可水量2000m3/日を保持できる見込み	施策の課題	水質と取水量に注視しながら安定した取水の管理を更に徹底していく
総合評価(方向性)	新井戸について試験的な取水を行いながら、安定取水に取り組んでおり、施策の推進が図られている。今後も、水質と取水量に注意しながら、安定取水の管理を行っていく必要がある。		

(1)水源の確保 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	施設更新事業		36,120	17,543		【23】井戸掘削 【24】浄水設備に接続
合 計			36,120	17,543		

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	施設更新事業井戸掘	孔		1			【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(2)水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	① 水道未普及地域の整備を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	水道普及率				全町における水道の普及率	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	86.6	87.6	87.3	87.5	【24】普及率の微減は人口変動による数値変動である。未普及区域への整備は順調に進んでいる
		基準年度比(%)	1.2	0.8	1.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	町民のより良い生活環境の実現のため、必要な施策である。		5	水道3次拡張計画及び簡易水道認可計画どおりに事業を推進している。
24年度	4	同上		5	同上
25年度	3	同上		4	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	水道3次拡張計画及び簡易水道認可計画に基づいて施設整備を推進し、着実に未普及地域の解消が進んでいる。	施策の課題	人口の増加に陰りがみられる中、将来的な給水人口の推移に注視しながら、効率的かつ経済的な施設整備が必要となる。
総合評価(方向性)	施設整備計画に基づき、未普及地域の解消が進められている。将来的な給水人口の推移等も把握しながら、効率的かつ経済的な施設整備を実施していく必要がある。		

**(2)水道施設の整備、維持管理**      **施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道営営農飲雑用水事業負担金	45,513	147,832	208,873	151,674	
2	然別川左岸簡易水道事業	111,306	104,552			
3	西部簡易水道事業		5,008	5,775	142,080	
4	東部簡易水道事業	6,238	48,325	91,909	141,832	
5	第3次拡張事業	355,952	293,792	282,977	145,808	
合 計		519,009	599,509	589,534	581,394	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道営営農飲雑用水事業負担金	m	7,101	11,126	19,820	4,911	
2	然別川左岸簡易水道事業	m	7,226	4,340			
3	西部簡易水道事業					3,495	
4	東部簡易水道事業	m	2,280	11,126	19,820	7,756	
5	第3次拡張事業	m	9,357	4,053	3,927	1,379	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2.8	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度	
2	3	3							
3					3	3			
4	3	3	3	3	3	3	3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)		
5	3	3	3	3	3	3			
平均	2.95	3.00	2.67	3.00	2.75	3.00			

施策区分	(2)水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	② 水道施設の長寿命化のため、計画的な更新と耐震化を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	上水道区域内有収率		給水水量に対する収益となる水量の比率			
数値2	上水道管路耐震化率		導送水管及び基幹配水路における耐震化状況			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	91.4	91.4	90.4	88.7	【24】 微減ではあるが、ほぼ横這いであり、現状を維持している
		基準年度比(%)	0.0	△ 1.1	△ 3.0	
数値2	%	50	51	52	53	
		基準年度比(%)	2.4	5.0	5.8	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	水道施設の老朽化による改修や更新、耐震化は、必要な施策である。		5	施設更新計画どおり事業を推進している
24年度	3	計画どおり事業を推進している		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	有収率の微減は配水本管通水及び洗管、施設管理作業などにおける作業水量や無収水量の増にもよるが、概ね施設の老朽化による漏水等によるものと考えられる。耐震化率については適切な更新事業により順調に推進している。	施策の課題	有収率の微減についてはほぼ横這いであり、現状を維持している。ただし今後においては更新事業の更なる推進と漏水対策など維持管理の強化が課題となっている。
総合評価(方向性)	施設更新計画に基づき、耐震化も含め安全で衛生的な生活環境の維持に向け、施策の推進が必要である。		

**(2)水道施設の整備、維持管理**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	施設更新事業	115,968	60,102	89,224	85,079	【】
合 計		115,968	60,102	89,224	85,079	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	施設更新事業	m	2,139	1,672	712	1,319	【24】音更町浄水場耐震改修工事施工 【25】高区配水池ほか計器更新工事施工

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1			3	2	3	2	3 2 1	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 貢献している(施策を推進する事務事業) 貢献していない。
							3 2 1	施策に対する事務事業の達成度 順調に進んでいる(80~100%) ある程度進んでいる(50~79%) 遅れがある、未着手(50%未満)
平均			3.00	2.00	3.00	2.00		

施策区分	(2)水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	③ 災害時の応急飲料水を確保するため、緊急貯水槽の整備を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	緊急貯水槽整備数		H21より整備を進めている緊急貯水槽の総数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	基	2	4	5	6	
	基準年度比(%)		100.0	150.0	200.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	災害時の応急飲料水の確保のため、必要な施策である。	5	計画どおり事業を推進している
24年度	3	計画どおり事業を推進している	5	同上
25年度	1	計画どおり事業を推進し、25年度に整備完了	5	計画どおり事業を推進し、25年度に整備完了
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成21年から実施した緊急貯水槽の整備は平成25年度までに予定していた6基の整備を完了した	施策の題	施設整備が完了し、今後については適切に管理し、災害対策として健全な施設状態を保持する
総合評価(方向性)	緊急貯水槽については、計画どおりに施設整備を実施した。今後は、緊急時に備えて点検等も実施する必要がある。		



**(2)水道施設の整備、維持管理**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	上水道事業出資金	29,982	37,732	26,997	25,620	
2	第3次拡張事業(緊急貯水槽設置)	81,984	130,841	62,918	78,115	
<b>合 計</b>		<b>111,966</b>	<b>168,573</b>	<b>89,915</b>	<b>103,735</b>	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	緊急貯水槽設置	基	1	2	1	1	
2	緊急貯水槽設置	基	1	2	1	1	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1			2	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。		
2			3	3	3	3			
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3 順調に進んでいる(80~100%)	
								2 ある程度進んでいる(50~79%)	
								1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均			2.50	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(2)水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	④ 農村部の水の確保に努めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	簡易水道の給水人口				西部簡易水道、東部簡易水道の給水人口の計	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	1,636.0	1,849.0	1,863.0	1,880.0	【H23】然別川左岸地区の給水人口の増加による
		基準年度比(%)	13.0	13.9	14.9	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	農村部においては、営農用水事業及び簡易水道事業により整備を進めているが、市街地よりも整備が遅れており、今後も水道未普及地域の解消に努めていく必要がある。		5	各事業については、計画どおり実施している状況にあり、然別川左岸地区の完了に伴い給水人口が増加している。
24年度	5	同上		5	各事業については、計画どおり実施している状況にあり、給水人口は増加傾向にある。
25年度	5	同上		5	各事業については、計画どおり実施している状況にあり、給水人口は増加している。東部地区も順調に進んでおり、今後も増加傾向にある。
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	計画どおり事業実施している状況にあり、平成25年度も給水人口は増加している。	施策の課題	計画に基づいて着実に施設整備が進んでいるが、農村部の人口が減少傾向にある中で、全地域に配水管による水の供給を行うのは、地理的要件や費用的な面から大きな課題が残る。
総合評価(方向性)	国の補正予算の活用等により、計画どおりの事業推進が図られている。事業実施は国の補助枠等に大きく影響されるが、農村部における水道未普及地区の解消のため、安全な水を供給する区域の拡大に努める必要がある。		

**(2)水道施設の整備、維持管理**      **施策④ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	大牧専用水道配水管更新		56,669			
2	道営営農飲雑用水事業負担金	45,513	147,832	208,873	151,674	
3	然別川左岸簡易水道事業	71,198	103,847			
4	西部簡易水道事業		5,008	5,775	142,080	
5	東部簡易水道事業	6,238	48,325	91,909	141,832	
合 計		122,949	361,681	306,557	435,586	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	大牧専用水道配水管更新(整備延長)	m		2,855			
2	道営営農飲雑用水事業(整備延長)	m	7,101	11,126	19,820	4,911	
3	然別川左岸簡易水道事業(整備延長)	m	2,405	4,340			
4	西部簡易水道事業(整備延長)	m				3,495	
5	東部簡易水道事業(整備延長)	m	2,280	11,126	19,820	7,756	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3					3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度	
2	2	3	2	3	3	3			
3	3	3							
4	3	3	3	3	3	3	3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)		
5	3	3	3	3	3	3			
平均	2.80	3.00	2.67	3.00	3.00	3.00			

## 第2章 住み良さと自然が共生するまち

### 第3節 快適な生活基盤

分野(評価項目) 8 下水道、排水処理

総合計画  
参照ページ

P. 68

#### 1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町の平成21年度末現在の公共下水道普及率は83.6%で、浄化槽や農業集落排水施設を含めた汚水処理人口普及率は91.2%です。
- 市街化区域内の汚水整備はほぼ終了していますが、今後も市街化区域の拡大に伴う整備が必要です。また、埋設後30年以上経過している汚水管が28km以上あり、今後も増加していくことから、下水道処理施設も含めた適切な維持管理とあわせ、老朽管対策が必要です。
- 雨水の整備率は、全体の6割ほどであるため、今後も整備が必要です。
- 市街化調整区域や農村部では、今後も未整備部分(約4,000人分)の汚水整備が必要です。

#### 2 計画策定時の「めざす方向」

- 快適な生活環境づくりと公共用水域の水質保全のため、下水道の整備促進に努めます。

#### 3 推進状況

##### (1)これまでの主な取り組みと成果

汚水処理については、公共下水道の普及率は、認可区域内においては99.9%に達しており、駒場地区の公共下水道への汚水管接続も平成28年度からの接続を目指し、計画どおり進捗している。施設については、優先度により計画的な更新を行っている。個別排水処理施設の整備については、農村部を中心に浄化槽の普及を進めている。雨水処理については、浸水対策を図りながら計画的な整備を進めてきた。

##### (2)残されている課題等

人口推移に合わせた施設の維持管理体制の更なる強化が求められる。特定事業場からの排水に係る水質検査の体制構築が課題となっている。

#### 4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.50	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50~5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00~4.49) C 計画を下回っている(3.00~3.99) D 大幅に計画を下回っている(0~2.99)
------------	------	-----------	---	--

**5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策**

施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策参照 記号							
<table border="1"> <tr> <td>施策</td> <td rowspan="2">H23</td> <td rowspan="2">H24</td> <td rowspan="2">H25</td> <td rowspan="2">総合評価</td> <td rowspan="2">施策参照 記号</td> </tr> <tr> <td>所管課</td> </tr> </table>	施策	H23	H24	H25	総合評価	施策参照 記号	所管課					
施策	H23						H24	H25	総合評価	施策参照 記号		
所管課												
<b>(1) 下水道施設の整備、維持管理</b>												
① 市街化区域内の下水道整備を進めます。												
上下水道	5	5	5	将来的な認可区域の変更に合わせて施設整備が必要となるが、人口推移に注視しながら、衛生的な生活環境の向上に努める必要がある。	①-1							
② 下水道施設の長寿命化を進めるため、計画的な更新と耐震化を進めます。												
上下水道	5	5	5	更新に関しては、計画に沿って適切に実施し、財政負担の軽減に努めながら施策を推進する必要がある。	②-1							
③ 下水道事業の運営の合理化を推進するため、施設の統合などを進めます。												
上下水道	5	5	5	運営の合理化のために、施設の統合等を進め、維持管理費の低減を図りながら、受益者に不利益が被らないよう努める必要がある。	③-1							
④ 不良排水地区を解消するため、雨水整備を進めます。												
上下水道	5	5	5	計画に沿って浸水対策は行っており、計画通り実施されている。道路整備等と併せて効率的に雨水整備を行い、施策の推進を図る必要がある。	④-1							
★ ⑤ 下水道区域外の個別排水処理施設(合併浄化槽)の整備を進めます。												
上下水道	5	5	5	平成25年度は20基の整備を実施し施策の推進が図られている。個別排水処理施設の整備は農村部等の生活環境の向上とともに汚水の衛生処理による環境保全の観点からも重要であり、引き続き整備を進めていく必要がある。	⑤-1							
⑥ 下水道区域内および個別排水処理区域内の水洗化の普及に努めます。												
上下水道	5	5	5	下水道区域内および個別排水処理区域内の水洗化はほぼ完了しており、施策は推進されている。今後は、未水洗化者へ啓発等を行い、100%の水洗化を目指す必要がある。	⑥-1							
<b>(2) 下水道利用者の意識啓発</b>												
① 事業所などで下水道を適切に使用してもらうため、特定事業場の水質調査を実施します。												
上下水道	2	2	2	適切な施設管理を行うために、各事業所からの排水の水質状況を確認するために、管理体制等を整える必要がある。	①-1							
② 家庭雑排水に対する意識啓発を進めます。												
上下水道	4	4	4	広報やホームページでの周知の内容を検討し、より効果的な周知を図る必要がある。	②-1							
全施策の推進状況の平均値	4.5	4.5	4.5									

**6 指標の実績**

(1) 区分

番号	目標指標名	説明
1	生活排水施設総合普及率	全町の生活排水施設の普及率(公共下水道、農業集落排水、個別排水処理施設)
2	汚水老朽管の更新延長	30年以上経過した汚水コンクリート老朽管の更生などの工事延長
3		

4		
5		
6		

(2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	91.2	H21	92.1	92.9	93.3	93.3	H26	100.0
2	m	1196	H21	1808	2387	3269	3696	H26	88.4
3									
4									
5									
6									

(3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	【H22】IC工業団地内の一部整備実施
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)下水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	① 市街化区域内の下水道整備を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	公共下水道普及率(%)		下水道処理区域内人口 ÷ 住民基本台帳人口 × 100			
数値2	認可区域内普及率(%)		下水道処理区域内人口 ÷ 下水道認可区域内人口 × 100			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	84.0	84.3	85.0	85.0	【H23】未普及地域の汚水整備は実施していない。(自然増)
	基準年度比(%)		0.4	1.2	1.2	
数値2	%	100	100	100	100	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	未整備地域を解消し、衛生的な生活環境を構築するため、必要な施策である。		5	下水道認可区域内における整備率としては99.9%であり十分に達成されている。
24年度	3	同上		5	下水道認可区域内における整備率としては99.9%であるとともに、流域2号幹線枝線、駒場地区接続管も予定通りの進捗である。
25年度	3	同上		5	昨年と同様の推進状況となっている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	処理区域内は、開発行為等により整備が進んでいる。平成25年度は民間開発行為(中鈴蘭元町)により整備が進んだ。	施策の課題	将来の認可区域の変更にあわせ、施設整備が必要となる(人口の推移に注視)。
総合評価(方向性)	将来的な認可区域の変更に合わせて施設整備が必要となるが、人口推移に注視しながら、衛生的な生活環境の向上に努める必要がある。		

(1)下水道施設の整備、維持管理 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公共下水道事業	220,229	167,974	191,870	299,346	【】
合 計		220,229	167,974	191,870	299,346	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公共下水道普及率	%	84	84	85	85	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)



施策区分	(1)下水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	② 下水道施設の長寿命化を進むため、計画的な更新と耐震化を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	30年経過した老朽管の更新延長(累計)		30年を経過したコンクリート管の更新した延長(累計)			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	1,303	1,808	2,313	3,194	【H23、24】それぞれL=505mの管更生工事を実施した。 【H25】L=881mの管更生工事を実施した。
	基準年度比(%)		38.8	77.5	145.1	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	老朽度の著しい危険度の高い区域をH8から管更生工法で更新を図ることにより、不明水及び補強対策が図られていることから、継続して必要な施策である。	5	計画的に実施しており、505mの工事を実施した。
24年度	4	同上	5	計画的に実施しており、平成24年度は地震対策のため、緑陽台団地の避難所下流管の505mの更新を行った。
25年度	4	同上	5	計画的に実施しており881mの工事を実施した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	不明水対策等により、優先度の高い路線から管更生の整備を行っている。	施策の題	現状を維持しながら、今後においては更新事業の更なる推進と維持管理の強化が必要である。
総合評価(方向性)	更新に関しては、計画に沿って適切に実施し、財政負担の軽減に努めながら施策を推進する必要がある。		

(1)下水道施設の整備、維持管理 施策② - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公共下水道事業	22,022	167,974	191,870	299,346	【】
合 計		22,022	167,974	191,870	299,346	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	老朽管更新延長(累積)	m	1,303	1,808	2,313	3,194	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1)下水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	③ 下水道事業の運営の合理化を推進するため、施設の統合などを進めません。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	駒場接続管整備延長		駒場地区と公共下水道区域との接続管(L=4,000m)整備工事をH25～H27に行い、切替えることにより駒場処理場を廃止する。			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	m	0	0	0	2,880	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	駒場処理場の施設更新時期を迎えていることから、公共下水道区域への接続により処理場を廃止でき更新費用及び維持管理費削減が図られるため、必要な施策である。	5	平成24年度より接続管の実施設計を交付金事業で実施するため、特環公共下水道の認可を取得した。
24年度	3	同上	5	平成25年度から工事を行うため実施設計を行った。
25年度	3	同上	5	交付金事業を活用し、約2,880mを整備した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成23年度より事務手続きを進め、平成25年度に接続管の整備を行った。	施策の題	平成28年度に切り替えできるよう、今後も現施策を推進していく必要がある。
総合評価(方向性)	運営の合理化のために、施設の統合等を進め、維持管理費の低減を図りながら、受益者に不利益が被らないよう努める必要がある。		

(1)下水道施設の整備、維持管理 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	公共下水道事業(駒場関係)			35,175	170,127	H24接続管の実施設計を行い、H25～27で接続管工事を実施し、H28流域関係への切替を行い処理場廃止
合 計				35,175	170,127	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	管路整備延長	m				2,883	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1			2	3	2	3		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
							達成度	3	順調に進んでいる(80～100%)
								2	ある程度進んでいる(50～79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均			2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(1)下水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	④ 不良排水地区を解消するため、雨水整備を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	雨水整備率				雨水整備面積/雨水計画面積	
数値2	雨水整備面積				雨水整備済み排水面積	
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	58.0	59.0	57.0	57.0	【H23】浸水区域の整備が終わっているため、街路整備と併せた整備
	基準年度比(%)		1.7	△ 1.7	△ 1.7	
数値2	ha	626	639	639	648	
	基準年度比(%)		2.1	2.1	3.5	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	浸水対策の整備は終わっていることから、街路整備等と併せた整備を行わなければならないため、必要な施策である。		5	街路事業等と連携して実施する必要があり、主要事業の計画に沿って整備を実施している。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	計画的に雨水整備を行い、浸水対策が図られている。	施策の課題	今後は、幹線道路の整備及び町道網整備と併せて効率的に雨水整備を推進していく必要がある。
総合評価 (方向性)	計画に沿って浸水対策は行っており、計画通り実施されている。道路整備等と併せて効率的に雨水整備を行い、施策の推進を図る必要がある。		

(1)下水道施設の整備、維持管理 施策④ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公共下水道事業	220,229	167,974	191,870	299,346	【】
合 計		220,229	167,974	191,870	299,346	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	雨水整備率	%	58	59	57	57	【H24】市街化区域の拡大と併せ、雨水計画区域も拡大したため、整備率が減となった。

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1)下水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	⑤ 下水道区域外の個別排水処理施設(合併浄化槽)の整備を進めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	合併処理浄化槽整備奇数		平成12年度から進めている個別排水処理施設整備事業において設置した浄化槽設置数			
数値2	浄化槽普及率		(個別排水事業設置人口+個人設置人口)÷事業対象区域内人口			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	基	518	539	556	576	【H12～17】57基/年整備、その後申込数の減により、H22～26は19基/年の整備計画としている。
	基準年度比(%)		4.1	7.3	11.2	
数値2	%	39	41	43	44	個人設置浄化槽人口を含む。
	基準年度比(%)		5.1	10.3	12.8	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	当初計画では平成12～21年度までの10か年で570基を整備する予定であったが、申込数が目標に達しないことから、事業を延伸している。生活環境の改善を促進するため必要な施策である。	5	H22から19基/年の計画を上回っており予定通りと言える。
24年度	5	同上	5	H24は19基/年の計画に対し、17基の整備を実施した。
25年度	5	同上	5	H25は19基/年の計画に対し、20基の整備を実施した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成12年度から開始した個別排水事業により、農村部(下水道区域外)の浄化槽普及率は44%となっている。	施策の題	現施策により推進を図るが、平成26年度までの事業計画である。平成27年度以降の設置要望を聞き取りした結果、ある程度の要望数があったため、事業継続を検討する。
総合評価(方向性)	平成25年度は20基の整備を実施し施策の推進が図られている。個別排水処理施設の整備は農村部等の生活環境の向上とともに汚水の衛生処理による環境保全の観点からも重要であり、引き続き整備を進めていく必要がある。		

(1)下水道施設の整備、維持管理 施策⑤ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価								
(1)実績の推移等								
事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)		
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度			
1	個別排水施設建設事業	42,735	41,795	34,091	41,540	【】		
合 計		42,735	41,795	34,091	41,540			
(2)代表的な成果の推移等								
事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)	
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度		
1	合併処理浄化槽整備数	基	20	21	17	20	【】	
(3)事務事業の評価								
事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3	3	3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)



施策区分	(1)下水道施設の整備、維持管理	担当課	上下水道課
施策	⑥ 下水道区域内および個別排水処理区域内の水洗化の普及に努めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	下水道区域内の水洗化率		水洗化人口÷処理区域内人口			
数値2	個別排水処理区域内の水洗化率		供用人口÷設置人口			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	99.5	99.5	99.5	99.6	公共下水道+駒場地区(H23までは農集排区域→H24から特環公共下水道区域)
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.1	
数値2	%	100	100	100	100	
	基準年度比(%)		0.3	0.3	0.3	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	未水洗化者は少数で、水洗化への普及啓もうは今後とも必要な施策である。	5	ほぼ100%の水洗化率となっており、施策の推進が図られている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	下水道区域内の水洗化率は、ほぼ100%で推移している。	施策の課題	未水洗化者へ啓発等を行いながら現施策を推進する。
総合評価(方向性)	下水道区域内および個別排水処理区域内の水洗化はほぼ完了しており、施策は推進されている。今後は、未水洗化者へ啓発等を行い、100%の水洗化を目指す必要がある。		

(1)下水道施設の整備、維持管理 施策⑥ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	排水設備改造資金借入れに対する利子補給	76	45	20	4	【件数】H22:14件、H23:13件、H24:5件、H25:4件
合 計		76	45	20	4	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	水洗化率	%	100	100	100	100	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

- 達成度
- 3 順調に進んでいる(80~100%)
  - 2 ある程度進んでいる(50~79%)
  - 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)下水道利用者の意識啓発	担当課	上下水道課
施策	① 事業所などで下水道を適切に使用してもらうため、特定事業場の水質調査を実施します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	水質検査の件数		各事業所の排水の水質状況の確認			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	0	0	0	0	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	2	生活環境を維持し、公共用水域の水質保全のため必要な施策である。	2	検査体制の樹立ができず、調査の実施に至っていない。
24年度	2	同上	2	同上
25年度	2	同上	2	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	検査体制が確立できず、各事業所からの排水の水質状況を確認できていない。	施策の課題	下水道を適切に利用してもらうため、今後も現施策を推進していく必要があるが、検査体制の確立が課題となっている。
総合評価(方向性)	適切な施設管理を行うために、各事業所からの排水の水質状況を確認するために、管理体制等を整える必要がある。		



施策区分	(2)下水道利用者の意識啓発	担当課	上下水道課
施策	② 家庭雑排水に対する意識啓発を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	ホームページ掲載回数		生活排水設備の接続についての啓発			
数値2	広報紙掲載回数		生活排水設備の接続についての啓発			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	1	1	1	1	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2	回	0	1	1	1	【H23から実施】
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	町民の衛生的な生活環境を維持するため必要な施策である。		4	広報及びホームページにおいて水洗化に関する広報活動を定期的に行っている。
24年度	3	同上		4	同上
25年度	3	同上		4	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成23年度から年1回広報等で啓発を行っている。	施策の題	普及率向上のため現施策は必要であるが、下水道の役割等も周知する必要がある。
総合評価(方向性)	広報やホームページでの周知の内容を検討し、より効果的な周知を図る必要がある。		

**(2)下水道利用者の意識啓発**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	ホームページ等による広報活動					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	広報活動(HP、広報紙)	回	1	2	2	2	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)